筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学
ダイバーシティ

令和元年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

筑波大学
ダイバーシティ

令和元年度活動報告書

国立大学法人筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

CONTENTS

4 ダイバーシティの推進を目指して

5 Ⅰ 筑波大学ダイバーシティ推進基本理念・基本方針

6 筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

7 筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針（英語版）

8 ダイバーシティ担当体制

9 Ⅱ ダイバーシティ推進事業

10 1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

10 ①概要

11 ②シンポジウム「What is the next step? How do we realize the future, which ensured diversity and gender equality for creating innovation by young generation?」

14 ③TIDE Women's Award in 筑波大学

19 2. つくば女性研究者支援協議会

19 ①「つくば女性研究者支援協議会」会議

21 ②「つくば女性研究者支援ネットワーク憲章」の制定

22 ③「つくば女性研究者支援協議会」会員

23 ④「つくば女性研究者支援協議会」パンフレット

24 3. 意識啓発事業

24 ①大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会

26 ②ダイバーシティリーダーセミナー

27 ③ダイバーシティセミナー

37 ④職員向けセミナー

38 4. 環境整備

38 ①育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業、管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業

39 ②ベビーシッター割引券

39 ③学内育児スペース

40 5. 相談事業

40 ①相談室“あう”とキャリア相談

43 ②LGBT相談

45 ③相談窓口総覧

46 6. 裾野拡大・次世代育成事業

46 ①女子中高生向け理系進路選択支援事業

52 ②学群総合科目・大学院共通科目

55 ③イノベーション・インターンシッププログラム

62 7. LGBT等への対応

66 8. 他機関・他部局との連携

66 ①ダイバーシティ・マネジメント推進会議

66 ②全国ダイバーシティネットワーク

70 ③つくばミンナのつどい2019

72 ④イベントポスター

77 Ⅲ 参考資料

78 ①ワークライフ支援ガイド（下敷き形）

79 ②育児休業制度利用の手引き

81 ③ロールモデル集

82 ④プレスリリース 「輝く女性の活躍を加速する　男性リーダーの会」行動宣言の賛同

ダイバーシティの推進を目指して

筑波大学のダイバーシティ推進への取り組みは、平成９年に女性教員有志による「筑波大学女性教官懇話会」から始まり、平成20年に「男女共同参画室」が設置されました。平成27年には、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが発足し、障がいをもつ学生の支援、学生のキャリア形成を担う部門と連携してダイバーシティの推進に取り組めるようになりました。そして、平成28年には、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、日本IBMと産業技術総合研究所と連携し、女性研究者・技術者の活躍を加速するための「３つの土台（環境支援・意識啓発・研究力向上）」と「３つの柱（次世代キャリア支援・上位層育成・研究活動再開支援）」となる取り組みを実施し、産学官の多様な視点に基づいて女性研究者・技術者を牽引することで、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現（Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment：TIDE）」を目指しています。

今年度の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の新たな取り組みとして、異業種交流会を行いました。異業種交流会は、女性研究者・技術者が、自身の研究のみならず、社会貢献やダイバーシティ活動への関わり方などをプレゼンテーションし、経験やノウハウを共有することで、女性研究者・技術者のネットワーク構築への一助となるよう開催いたしました。同じ研究者でもさまざまな立場で活躍している様子がわかり、大変活力をいただく会となりました。発表者の中から優秀者として選ばれたお二人へ、多領域で活躍する優秀な女性研究者・技術者を讃えるTIDE Women's Awardを贈呈しました。その表彰式と同時開催したシンポジウムでは、駐日ノルウェー大使であるInga M.W. Nyhamar氏をお招きし、ノルウェーにおける男女共同参画・ダイバーシティ推進の歴史や現状の課題をお話しいただきました。Gender Equalityの先進国と言われるノルウェーであっても依然として困難を抱えており、一歩ずつでも前進の歩を止めないことの重要性を感じました。

また、次世代キャリア支援として、平成25年度から「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」として、リケジョ合宿を実施しています。本年も、全国から100名以上の中高生に参加いただきました。今年度は茨城県とつくば市と共催で開催し、筑波大学のみならず近隣の研究機関等の研究者の皆様にご協力をいただき、子供たちの夢に向かう背中を押すようなイベントを行うことができました。

その他にも、LGBT等（Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む）の学生および教職員への支援体制については、平成29年に「LGBT等に関する基本理念及び対応ガイドライン」を作成し、引き続き学内外に向け、啓発活動を行っております。

ダイバーシティへの取り組みは、一歩ずつ着実に進んでいるという思いと同時に、思うように進まない焦燥感が交錯しますが、様々な事業を通じて出会う人たちのエネルギーと強い思いに力をいただいています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）を目前に控え、東京2020大会組織委員会は、大会ビジョンの３つのコンセプトの一つに「多様性と調和」を掲げています。大会後も、日本社会に「ダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）」の考え方をレガシーとして根付かせていくことを目指しています。大会の成功とアスリートの活躍を祈念するとともに、ダイバーシティ社会を広げていく起爆剤となる可能性を強く感じています。今後もスタッフ一同、ダイバーシティの実現に向けて努めてまいりますので皆様にもご協力、ご支援を賜りますようにお願いを申し上げます。

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
副センター長
山口　香

I

筑波大学ダイバーシティ推進
基本理念・基本方針

Ⅰ 筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針

筑波大学では平成20年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」を策定し、同理念・方針に則って男女共同参画室を中心に本学におけるダイバーシティ推進を行ってきました。平成24年には、それまでの男女共同参画を更に拡充するため、「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定し、「男女共同参画推進室」から「ダイバーシティ推進室」と名称を改め、平成25年には「筑波大学ダイバーシティ推進行動計画」を策定しました。更に平成27年には、「筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」※へと再編され、包括的な視点から本学のダイバーシティ推進に取り組んでいます。

※筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターは、従来のダイバーシティ推進室、障害学生支援室、キャリア支援室を有機的に統合し、多様化する学生及び教職員への包括的な支援を目的として設置されたセンターです。性別、国籍、年齢及び障がいの有無等にかかわらない、幅広いダイバーシティの推進を目指し、活動に取り組んでいます。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針

【基本理念】

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作りあげるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

1．性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわらず、すべての人の人権の尊重、個人の尊厳の確立
2．性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわりなく個人としての個性と能力発揮の機会の確保
3．あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定において、性別、国籍、年齢及び障がいの有無にかかわりない対等な参画の推進
4．男女共同参画社会、及びダイバーシティ社会の実現に向けた国際協力の推進

【基本方針】

基本理念に基づき、次に示す基本方針に沿って行動する。

1．男女共同参画、及びダイバーシティの視点に立った教育・研究・就業の確立
2．教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3．若手、女性、外国人等（注）増加のための施策の推進
4．若手、女性、外国人等の役職、及び施策決定に関与する委員会への登用の促進
5．教職員・学生への啓発活動の推進
6．地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画、及びダイバーシティの推進

（注）「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

筑波大学ダイバーシティの推進に係る基本理念・基本方針　英語版

Basic Principles

University of Tsukuba commits itself to actively contributing to the formation of a society founded on human equality and gender equality in accordance with the following principles, thereby becoming a university where human potential and diversity are respected and all stakeholders can experience pride and joy in their work:

1. Respect of the human rights regardless of age, gender, nationality, or disability and the stablishment of the dignity of the individual
2. Creation of opportunities for all people to realize their full individuality and potential regardless of age, gender, nationality, or disability
3. Promotion of equal participation regardless of age, gender, nationality, or disability in planning, development, and decision-making for policies in every area of campus life and administration
4. Promotion of international cooperation in the service of achieving a society founded on gender equality and diversity

Basic Policies

The University of Tsukuba shall act in accordance with the following Basic Policies, which embody the Basic Principles described above:

1. Pursuit of education, research, or work from the perspective of gender equality and diversity
2. Offering of assistance in the balancing of education, research, or work with family life
3. Expansion of an open recruitment system in order to increase the number of young, female, or foreign faculty members
4. Promotion of young, female, or foreign faculty members to administrative positions
5. Pursuit of awareness-raising activities targeting faculty members and students
6. Pursuit of gender equality and diversity through partnerships with the local community and international society

Note: The term “young, female, or foreign” refers to individuals regardless of age, gender, nationality, or disability.

ダイバーシティ担当体制

令和元年度

氏名	所属	職名
山口（ヤマグチ） 香（カオリ）	体育系	教授 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 副センター長
河野（カワノ） 禎之（ヨシユキ）	人間系	助教
土井（ドイ） 裕人（ヒロト）	人文社会系	助教
樋熊（ヒグマ） 亜衣（アイ）	学生部就職課　DACセンター	ディレクター
末富（スエトミ） 真弓（マユミ）	学生部就職課　DACセンター	キャリアカウンセラー
大園（オオゾノ） 裕香（ユカ）	学生部就職課　DACセンター	係長
三浦（ミウラ） 博子（ヒロコ）	学生部就職課　DACセンター	主任
石井（イシイ） 万里子（マリコ）	学生部就職課　DACセンター	一般係員
福田（フクダ） 千里（チサト）	学生部就職課　DACセンター	事務補佐員
片岡（カタオカ） 友子（トモコ）	学生部就職課　DACセンター	事務補佐員

II

ダイバーシティ推進事業

Ⅱ ダイバーシティ推進事業

1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

①概要

筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所の３機関は、産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引するため、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に協働して取り組みます。本事業を通して産学官の３機関が協働することにより、各機関及び地域や分野における女性研究者・技術者の一層の活躍を推進します。

－「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」－

研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、各機関・地域の特色を踏まえた、女性研究者の活躍推進に向けた機関としての目標・行動計画を設定・公表することを要件とし、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組及び女性研究者の積極採用や上位職への積極登用に向けた取組を支援する、文部科学省科学技術人材育成費補助事業です[1]。

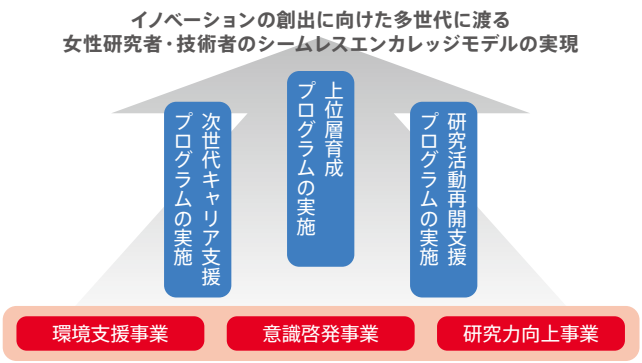
特に「牽引型」は、大学や研究機関が企業等と連携し、連携する各機関はもとより、その他の機関を含めた地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する取組です[1]。

[1] 文部科学省・科学技術振興機構「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」HP 参照
（http://www.jst.go.jp/shincho/josei_shien/index.html）

実施目的

筑波大・日本IBM・産総研が連携して女性研究者･技術者の採用や活躍を加速するための「３つの柱」と「３つの土台」となる取組を実施し、産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引することで、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現」を目指します。

取組の全体像（３つの土台と柱）



本事業のロゴマーク

TIDE

TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environmentとは、筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所による平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現を目指して」の略称です。

②シンポジウム「What is the next step? How do we realize the future, which ensured diversity and gender equality for creating innovation by young generation?」

シンポジウム実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	TIDEシンポジウム 「What is the next step? How do we realize the future, which ensured diversity and gender equality for creating innovation by young generation?」
実施日	2019年10月４日（金）10:00～12:30
場所	つくば国際会議場 102
形式	一般公開・(シンポジウム)・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般)(研究者)(学生)(その他（エンジニア）)
来場者	人数：85名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　(プレスリリース)(HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　センター長　五十嵐浩也／人間系　河野禎之
内容	最初にこれまでの異業種交流会を通じて選出された２名の女性研究者・技術者である、堀愛氏（筑波大学医学医療系助教）と野村有加氏（日本IBM Advisory Software Developer）に対して、筑波大学学長よりTIDE Women's Awardが授与されました。その後、駐日ノルウェー大使であるInga M.W. Nyhamar氏による基調講演が実施されました。特にノルウェーにおける男女共同参画・ダイバーシティ推進の歴史や現状の課題、今後に向けた方向性等について話題が広がり、Gender Equalityの先進国と言われるノルウェーであっても依然として困難を抱えており、一歩ずつでも前進の歩を止めないことの重要性が強調されました。その後、シンクタンク・ソフィアバンク代表の藤沢久美氏をモデレーターとした対談形式でのディスカッションを行い、藤沢氏によりフロアも巻き込んだ形で大使との対談が進められました。フロアからは世代間や地方－都市間のギャップ、ステレオタイプの再生産等の課題についても指摘があり、ノルウェーでの実践の紹介や日本での解決のためのヒントに向けた議論が重ねられました。 参加者からは、「ノルウェーと日本との比較から、課題がわかりやすく理解できた」「ノルウェーでの取組にも長い歴史があることがわかった」「世代間の連鎖について、子どもに選択肢をできるかぎり与えていきたいと感じた」等の声が寄せられ、多角的な視点を示すことができました。くわえて、アンケート結果からは９割以上がシンポジウムの内容に満足したとの結果が示され、参加者にとって有意義な時間とすることができました。

効果、問題点	学内外から外国人も含めて多彩な参加者を集めることができました。特に「筑波会議」と併催したことで、若手の研究者・技術者や学生の参加が多く、未来志向のディスカッションが展開されたことは有意義でした。

TSUKUBA CONFERENCE
For Future Shapers

TIDE

TIDE:Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environmentとは、
筑波大学、産業技術総合研究所、日本アイ・ビー・エム株式会社による
平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の
活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現を目指して」の略称です。

令和元年度 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」
シンポジウム/筑波大学第9回全学FD研修会

What is the next step?

How do we realize the future, which ensured diversity and gender equality for creating innovation by young generation?

若手研究者・技術者がイノベーションを創出する 未来に向けてダイバーシティ推進と男女共同参画はどうあるべきか?

多様な属性を有する若手研究者・技術者が、自らの能力を最大限発揮して活躍できる未来を描ける環境を作ることは、大学や研究機関、企業にとって重要な課題です。しかし、現状では、例えばジェンダーの課題に注目してみても、特に我が国においては男女共同参画すら実現されている状況には程遠いです。では、多様な属性を有する若手研究者・技術者が自分の未来を描けるためには何が求められるのでしょうか。本セッションでは、ダイバーシティ推進のなかでも特に「ジェンダー」という側面に焦点を当て、若手研究者・技術者を取り巻く現状とともに未来に向けて必要な次の一歩は何かを議論し、具体的な示唆を得ることを目的とします。

日時 2019年10月4日(金) 10:00〜12:30

場所 つくば国際会議場 102

基調講演 Inga M.W. Nyhamar氏 (駐日ノルウェー大使)

対談 モデレーター:藤沢 久美氏 (シンクタンク・ソフィアバンク代表)
登壇者:Inga M.W. Nyhamar氏 (駐日ノルウェー大使)

TIDE Women's Award 表彰式 ほか

オーガナイザー:五十嵐浩也氏 (筑波大学) / 山口 香氏 (筑波大学)

使用言語 日本語(日英同時通訳有)

参加方法

参加費無料。当日会場にお越しください。
※本シンポジウムは筑波会議と同時開催します。
筑波会議は10月4日のみ一般参加が可能です。
他の日程は招待者のみの参加となります。ご注意ください。
筑波会議の詳細は下記URLからご確認ください。
https://tsukuba-conference.com

託児(無料)

事前のお申込みが必要です。
以下の「お問い合わせ」にあるE-mailアドレスにご連絡ください。
締切:9月19日(木)

お問い合わせ

国立大学法人 筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(ダイバーシティ担当)
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL:029-853-8504 FAX:029-853-8505
URL:http://diversity.tsukuba.ac.jp/
E-mail:diversity@un.tsukuba.ac.jp

つくば駅A3出口を出て、バスロータリーに沿って右に進み、
階段を上り、遊歩道を直進およそ800m。

主催 国立大学法人 筑波大学、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、日本アイ・ビー・エム株式会社

共催 つくば女性研究者支援協議会

③TIDE Women's Award in 筑波大学

本顕彰は、多領域で活躍する優秀な女性研究者・技術者を讃えるため、2018年度より「TIDE Women's Award」を創設しました。研究者のみならず教育や地域貢献、機関内外ダイバーシティ推進に尽力している女性研究者・技術者を顕彰することにより、当該の優秀女性研究者・技術者自身及びこれに続く多くの研究者・技術者の励みとし、ステップアップに繋がるよう教育・研究・社会貢献等への意欲を高め、学術研究や科学技術の将来を担う優れた人材の育成に資することを目的としています。

異業種交流会への参加をして頂き、その発表者の中から、研究実績や取り組んでいるダイバーシティ推進についてとその成果、またリーダーシップや周囲との連携や広がり・影響等を総合的に評価したうえで、本年度は２名の女性研究者・技術者の受賞が決定しました。

■受賞者

氏名	所属
堀　　愛	筑波大学医学医療系助教
野村　有加	日本IBMアドバイザリーソフトウェアデベロッパー

■授賞式

10月４日（金）TIDEシンポジウム会場において、表彰式が行われました。受賞された２名が永田学長より表彰状、トロフィーを授与されました。

堀 愛氏は産業医としての顕著な研究実績、自身の自宅での育児支援等々広範囲にわたる活動実績が評価されました。

野村 有加氏は日本IBMのAI「Watson」の製品におけるユーザーインターフェースの開発に従事するかたわら、Pepperのアプリケーション開発を趣味で行っており、その活動を学校教育の場で講演するなど社会貢献等が評価され受賞されました。

堀　　愛
（筑波大学医学医療系助教）

野村　有加
（日本IBMアドバイザリーソフトウェアデベロッパー）

第１回女性研究者・技術者異業種交流会実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第１回女性研究者・技術者異業種交流会 ダイバーシティ・リーダー・チャレンジ
実施日	2019年７月18日（木）14:00～16:00
場所	筑波大学　筑波キャンパス　大学会館３Ｆ　特別会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））無
対象者	一般　研究者　学生（大学院生）　その他（　　）
来場者	人数：25名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香／人間系　河野禎之
内容	11名の筑波大学及び産総研の女性研究者が、現在取り組んでいる研究や社会へのアプローチについて、あるいは自身のこれまでのキャリアや取り組んでいるダイバーシティ推進の活動等について５分の持ち時間でプレゼンテーションを行いました。参加者は、発表者の研究・教育活動のみに留まらない、幅広い社会的・国際的な活動に熱心に耳を傾けるとともに、その精力的な行動や理念に大いに刺激を受けていました。参加者アンケートから、90%以上の回答者が「内容に満足できた」「今後に役立つと思う」と答えたほか、「いろいろな分野で活躍している女性研究者の生活のバランスのノウハウを知ることができた」「同じ研究者でもさまざまな立場でそれぞれ頑張っている様子が伝わり、仕事へのモチベーションが増加した」等の肯定的なフィードバックが得られました。 なお、今回の11名の発表者のうち、参加者による投票の結果、堀愛氏（筑波大学医学医療系）のプレゼンが最も高く評価され、TIDE Women's Awardの受賞が決定しました。受賞者は、10月４日につくば国際会議場で開催されるシンポジウム内での表彰式にて、表彰と副賞の授与が予定されています。
効果、問題点	ネットワーキングの時間では、参加者、特に発表者同士のネットワークづくりが活発に行われ、仕事のことだけではなく、プライベートな内容のことも積極的に意見交換が図られており、女性研究者のネットワークの構築と拡大に資することができました。

主催：筑波大学・日本IBM・産業技術総合研究所

TIDE
ダイバーシテシィ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）

2019年度第1回

女性研究者・技術者 異業種交流会

～ダイバーシティ・リーダー・チャレンジ～

発表者募集！

一般参加者（発表なし）も同時募集！

エントリー締切
~~6月28日（金）~~

締切延長！
7月5日（金）

女性研究者・技術者同士で気軽に語り合い、発表する異業種交流会です。みなさまの素晴らしい活動を共有する機会となりますので、ご参加をお待ちしております。

参加無料

若手大歓迎！

日時
2019年
7月18日 木曜 14:00～16:00

場所
筑波大学 大学会館 特別会議室

内容
発表内容：以下の観点を踏まえて、５分間のプレゼン
/研究の実績や取り組んでいる研究
/ダイバーシティに関する取り組み。その効果と成果
/その他、特記事項等（教育活動や社会貢献など）

対象：筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所及びつくば女性研究者支援協議会会員・連携機関に在籍している女性研究者・技術者

※交流会後、参加者のネットワーク構築の場として情報交換会(参加費1,000円)を設けます。

問い合わせ
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　E-mail: diversity@un.tsukubai.ac.jp

申し込み
下記、筑波大学ダイバーシティ担当のHPより
URL：https://diversity.tsukuba.ac.jp/?p=19260

✓ 聴講のみの一般参加（発表なし）も歓迎です。資料準備のため【7月12日（金）まで】に上記HPよりお申込みください（当日参加も歓迎）

TIDE Women's Award

「TIDE Woman's Award」は、研究のみならず教育や地域貢献、機関内外のダイバーシティ推進に尽力している女性研究者・技術者を表彰します。異業種交流会に参加いただいた発表者は、本アワードにノミネートされ、さらに、当日優秀な女性研究者・技術者に選ばれた方へ、 アワードが贈られます。受賞者は、2019年10月4日（金）10:00～12:30につくば国際会議場で行われる、TIDEシンポジウム（筑波会議内）にて、授賞式にご参加いただき、表彰いたします。

第２回女性研究者・技術者異業種交流会実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第２回女性研究者・技術者異業種交流会 TIDE Women's Awardに挑戦しよう
実施日	2019年９月６日（金）15:00～17:20
場所	日本IBM　箱崎本社15階　1511教室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））無
対象者	一般　研究者　学生（大学院生）　その他（エンジニア）
来場者	人数：25名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○日本IBM　梅田　恵 筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香／人間系　河野禎之
内容	８名の女性研究者・技術者（日本IBM：６名、筑波大学：１名、産総研：１名）が、現在取り組んでいる研究や開発についてのほか、自身のキャリアを通じての社会貢献やダイバーシティ推進の活動について５分間のプレゼンテーションを行いました。参加者は、発表者の業務のみに留まらない、精力的な社会的・国際的な活動に熱心に耳を傾けました。開催後の参加者アンケートから、90%以上の回答者が「内容に満足できた」「今後に役立つと思う」と答えたほか、「女性のキャリアと人生の可能性を学ぶことができた」「異業種における女性のパワーを感じ、清々しい気持ちになった」等の肯定的なフィードバックが得られました。 なお、今回の８名の発表者のうち、参加者による投票の結果、野村有加氏（日本IBM Advisory Software Developer）のプレゼンが最も高く評価され、TIDE Women's Awardの受賞が決定しました。受賞者は、10月４日につくば国際会議場で開催されるシンポジウム内での表彰式にて、表彰と副賞の授与が予定されています。
効果、問題点	ネットワーキングの時間では、参加者、特に発表者同士のネットワークづくりが活発に行われ、仕事のことだけではなく、プライベートな内容のことも積極的に意見交換が図られており、女性研究者のネットワークの構築と拡大に資することができました。

第３回女性研究者・技術者異業種交流会実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（牽引型）
課題名	第３回女性研究者・技術者異業種交流会 TIDE Women's Award受賞者を囲んで
実施日	2019年10月４日（金）14:00～15:30
場所	つくば国際会議場 401
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））無
対象者	一般　研究者　学生　その他（エンジニア）
来場者	人数：29名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香／人間系　河野禎之
内容	最初にTIDE Women's Awardを受賞した２名の女性研究者・技術者が、それぞれ15分のプレゼンを実施しました。堀愛氏（筑波大学医学医療系助教）は、産業医としての顕著な研究業績だけではなく、研究成果を社会に広く発信してきた精力的な活動や、自身の自宅を活用した地域での育児支援等、広範囲にわたる実績が評価された内容をプレゼンしていただきました。また、野村有加氏（日本IBM Advisory Software Developer）は、エンジニアとしての日本IBM社内での業務実績だけではなく、社外での積極的なネットワーキングによるキャリアへの還元や、プライベートでもアプリ開発などを行うと共にその活動を学校教育の場で講演するなど、中高生のロールモデルとなる社会貢献等の実績が評価された内容をプレゼンしていただきました。その後は、受賞者２名を囲みながら、和やかな雰囲気で交流会が行いました。 交流会で参加者からは「こうした場にもっと多くの若手や学生が参加してほしい」「非常に楽しく面白い内容だった。是非来年も実施してほしい」等の声が寄せられ、「異業種交流会」「TIDE Women's Award」そして「シンポジウム」という一連の取組の十分な成果を示すことができました。
効果、問題点	参加者にとっては大変有意義な取組であることが示すことができましたが、それだけに次年度以降はより参加者の裾野を広げていく必要性を強く実感しました。

2. つくば女性研究者支援協議会

①「つくば女性研究者支援協議会」会議

第１回会議実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第１回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2019年５月20日（月）15:00～17:00
場所	つくば市役所　302会議室
出席者	【茨城県庁】沖彩加【茨城県立医療大学】永野愛、桜井直美、瀬高裕佳子 【小野薬品】吉田耕三【産業技術総合研究所】井出ゆかり、藤村友美 【森林総合研究所】高山範理、松原恵理【つくば市役所】久保田博之、小瀧彩実 【日本IBM】梅田恵【農業・食品産業技術総合研究機構】加藤晶子 【物質材料研究機構】竹内孝夫、岩澤明美 【筑波大学】山口香、河野禎之、秋葉重実、大園裕香、石井万里子
議事	（１）議事要旨確認 （２）2019年度女子中高生理系進路支援プログラムについて （３）つくば女性研究者支援協議会の今年度の目的と活動に関するワークショップ
1.報告事項	特になし
2.審議事項	（１）平成30年度第３回つくば女性研究者支援協議会議事要旨確認 （２）2019年度女子中高生理系進路支援プログラムについて協力して進めることを確認しました。
3.決定事項	2019年度女子中高生理系進路支援プログラムについて、開催日程や実施の詳細について説明があり、実施に向けて引き続き各機関の協力のもとで進めていくことで合意しました。
4.今後の進め方	今年度のつくば女性研究者支援協議会の目的と活動についてワークショップを行い、協議会の目的を関係者間であらためて共有したうえで、今年度の活動に支援協議会やその他の団体・機関を積極的に巻き込んでいくことで合意を得ました。
特記事項	支援協議会の目的としては「交流の場を設けたり、メーリングリストを活用するなどして情報共有を進めながら取組をアーカイブ化していくこと、それらの情報を分析し、課題を克服するためのイベントを協働で実施していくこと、そしてフィードバックを行ってさらに改善を図っていくこと」を今年度の目的として確認しました。これらの目的に合わせて、各機関でどのような取組を今年度実施するのか、その取組にどのように支援協議会のメンバーやその他の団体・機関を巻き込んでいけるのかが提案され、次回の協議会で進捗の報告を行うこととなりました。

第２回会議実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	第２回つくば女性研究者支援協議会
実施日	2019年９月２日（月）16:00～17:00
場所	筑波大学スチューデントプラザ３Ｆ会議室
出席者	【茨城県立医療大学】永野愛、桜井直美、瀬高裕佳子【小野薬品】吉田耕三 【産業技術総合研究所】佐藤縁【森林総合研究所】高山範理、松原恵理 【つくば市役所】前田由紀子、小瀧彩実【日本IBM】梅田恵 【農業・食品産業技術総合研究機構】加藤晶子 【筑波大学】五十嵐浩也、山口香、河野禎之、秋葉重実、大園裕香、石井万里子
議事	（１）議事要旨確認 （２）ダイバーシティ・サポート・オフィスとの連携について （３）TIDEシンポジウムの共催について
1.報告事項	（１）令和元年度女子中高生理系進路選択支援プログラムについて、つくば女性研究者支援協議会参加・連携機関の協力のもと、７月31日～８月２日の２泊３日で無事に開催されたことが報告されました。
2.審議事項	（１）2019年度第１回つくば女性研究者支援協議会議事要旨を確認しました。 （２）ダイバーシティ・サポート・オフィスとの連携について、連携協定を今年度も更新し、引き続き協力して活動に取り組むことを確認しました。 （３）10月４日に開催されるTIDEシンポジウムについて、つくば女性研究者支援協議会との共催とすることを確認しました。
3.決定事項	・ダイバーシティ・サポート・オフィスとの連携協定の延長 ・TIDEシンポジウムの共催の確定
4.今後の進め方	「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」及び「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業のなかでも特に各種取組のハブ事業として位置付けている「上位層育成プログラム」のコアとなる「異業種交流会」「TIDE Women's Award」「シンポジウム」の取組を連動させ、つくば女性研究者支援協議会と一体的に取り組んでいくことを確認しました。
特記事項	第１回で確認された「情報共有のためのアーカイブ化」については、メーリングリストを確立させ、各種情報を随時発信・共有していくことを開始しました。また、そこから各種イベントを協働で実施し、フィードバックを行ってさらに改善を図っていくことについても、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」から取組を開始しました。次回の協議会では「異業種交流会」「TIDE Women's Award」「シンポジウム」での取組を共有し、さらに進捗の報告を行うこととしました。

②「つくば女性研究者支援ネットワーク憲章」の制定

つくば女性研究者支援ネットワーク憲章

2015年11月10日

つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的としている。

この憲章は、男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）に基づく男女共同参画及びダイバーシティ推進の精神に基づき、本協議会が女性研究者の支援に関するネットワーク（つくば女性研究者支援ネットワーク）を構築し、関係する全ての女性研究者支援の向上・充実を図るための基本的な理念を共有するためのものである。

1. 女性研究者が性別を理由に教育・研究及び就業上の制限を受けることがないよう、これらの機会の確保に向けた支援のための連携を図る。

2. 女性研究者が教育・研究及び就業と家庭生活を両立できるよう、積極的な支援のための連携を図る。

3. 女性研究者及び女性研究リーダー増加のための施策や、女性研究者のスキルアップのための施策の推進に向けた連携を図る。

4. 女性研究者支援を通じ、性別、国籍、年齢および障がいの有無にかかわらず、人間の可能性と多様性を尊重したダイバーシティ推進に向けた連携を図る。

③「つくば女性研究者支援協議会」会員

つくば女性研究者支援協議会

所属機関名	氏名
筑波技術大学	高橋　　敏
筑波学院大学	古家　晴美
茨城県立医療大学	桜井　直美
茨城県立医療大学	永野　　愛
茨城県立医療大学	瀬高　裕佳子
小野薬品工業株式会社	岸川　勝哉
小野薬品工業株式会社	吉田　耕三
エーザイ株式会社	戒能　真人
大鵬薬品工業株式会社	桐井　利夫
大鵬薬品工業株式会社	石田　史明
大鵬薬品工業株式会社	清水　晶子
アステラス製薬株式会社	鈴木　恵子
株式会社生体分子計測研究所	岡田　孝夫
株式会社生体分子計測研究所	高野　光彦
日本IBM株式会社	梅田　　恵
アサヒビール株式会社	山岸　裕美
つくば市役所	久保田　博之
つくば市役所	前田　由紀子
つくば市役所	小瀧　彩実
茨城県庁	冨山　勝彦
茨城県庁	沖　　彩加
筑波大学	五十嵐　浩也
筑波大学	山口　　香
筑波大学	河野　禎之
筑波大学	樋熊　亜衣
筑波大学	大園　裕香

【アドバイザー】

所属機関名	氏名
森林総合研究所	高山　範理
森林総合研究所	松原　恵理
物質・材料研究機構	竹内　孝夫
物質・材料研究機構	岩澤　明美
産業技術総合研究所	佐藤　　縁
産業技術総合研究所	井出　ゆかり
産業技術総合研究所	藤村　友美
農業・食品産業技術総合研究機構	加藤　晶子

（敬称略）

④「つくば女性研究者支援協議会」パンフレット

つくば女性研究者支援協議会をご活用ください。

- 女性にもっともっと活躍して欲しい
- 女性研究者やリーダーを育てたい
- 女性研究者のワーク・ライフ・バランスをさらに支援したい
- 女性研究者のモチベーションを高めるノウハウが知りたい

くるみんマーク　トモニンマーク

For Supporting Women Researchers

みなさまのご入会をお待ちしております。

入会は企業、団体、機関全体として入会いただくことも可能ですし、一部署、機関の一部（企業の中の研究所のみ等）でも可能です。

［入会のお申し込み先］
つくば女性研究者支援協議会
つくば市天王台1-1-1
筑波大学ダイバーシティ推進室内
Tel&Fax：029-853-8504/8505

会　員

astellas　IND

RIBM ライフイベント支援企業 株式会社生体分子計測研究所

★輝け！女性研究者★ ～子育てしやすい地域づくり～

Eisai エーザイ株式会社

茨城県立医療大学 IBARAKI PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES　保健・医療に女性パワーを！ 地域の保健医療を担い活躍する人材育成

Women's Empowerment 筑波学院大学 TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

筑波技術大学

IBM

小野薬品工業株式会社

DIVERSITY MANAGEMENT SELECTION 100 2014 アサヒビール株式会社

茨城県　TSUKUBA

筑波大学 University of Tsukuba　Office of Diversity University of Tsukuba　持続的・包括的な女性研究者支援 ～人間の可能性と多様性の尊重～

連携機関

DIVERSITY SUPPORT OFFICE　DSOでは、全国の研究教育機関が連携して ダイバーシティ・男女共同参画を推進しています。

平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」

世界で活躍する女性研究者を つくば地域から

For Supporting Women Researchers

つくば女性研究者支援協議会

活動内容

本協議会は、上記の目的を達成するために、下記に掲げる女性研究者の研究活動を支援するための事業を行っています。

1. 参加機関の連絡提携、情報交換
2. 女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
3. 女性研究者のキャリア形成支援活動
4. 各機関及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
5. その他

主な活動実績

- 意識啓発シンポジウムの開催
  平成26年2月19日、10月3日筑波大学において開催
- セミナー/勉強会の開催
  女性のためのリーダー研修、外部資金獲得セミナー、アサーティブコミュニケーションセミナー等の開催
- ロールモデル集の作成
- 協議会の開催と情報交換
- ワークライフバランスガイドの作成

参加機関（平成27年3月現在）

筑波大学、アステラス製薬、日本IBM、エーザイ、筑波技術大学、筑波学院大学、茨城県立医療大学、生体分子計測研究所、小野薬品工業、アサヒビール　ほか

連携機関

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）

会　則

（名称）
第１条　本会は、つくば女性研究者支援協議会（以下「本協議会」という。）と称する。

（目的）
第２条　本協議会は、筑波研究学園都市及びその近隣等にある国及び独立行政法人の研究機関、大学、大学共同利用機関法人、地方自治体、公益法人、民間の研究機関や企業等又はそれらの内部組織（以下「機関等」という。）の女性研究者が、出産・子育て等のライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上にむけた普及啓発・推進活動の連携を図ることを目的とする。

（用語の定義）
第３条　本会則において、「女性研究者」とは、学問分野を問わず、事物・機能・現象等について新しい知識を得るために、又は既存の知識の新しい活用の道を開くために、特定の研究テーマをもって創造的な努力及び探求を行う女性を指すものとする。

（事業）
第４条　本協議会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる女性研究者研究活動を支援するための事業（以下「本事業」という。）を行う。
(1)　機関等の連絡提携、情報交換
(2)　女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動
(3)　女性研究者のキャリア形成支援活動
(4)　機関等及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動
(5)　その他本協議会の目的達成に必要な事業

（構成員）
第５条　本協議会の構成員は、第2条の目的に賛同して入会手続きを行い、入会の承認を受けた機関等（以下「会員」という。）とする。

（会員の入退会）
第６条　本協議会の入退会については、次の各号のとおりとする。
(1)　本協議会に入会を希望する機関等は、所定の様式により会長宛に届出し、承認を得るものとする。
(2)　本協議会を退会する際には、理由を付した退会届を会長宛に提出し、当該退会届を受理した上で、会長がこれを承認するものとする。

（会員の権利・義務）
第７条　会員は次の各号の権利及び義務を有する。
(1)　会員は、本協議会が実施する各種活動に構成員として参加することができる。
(2)　会員は、会議への参加及び議決権を行使することができる。
(3)　会員は、それぞれ一個の議決権を有し、その議決権を行使し、本協議会の事業について説明を求めることができる。
(4)　会員は、本会則及び会議の議決を遵守する。
(5)　会員は、本協議会の目的を達成するために、本協議会の活動に積極的に参加する。
(6)　会員は、本協議会の入会時に届出た内容に変更が生じたときは、本協議会事務局へ通知しなければならない。

（会長）
第８条　本協議会の会長は、原則として筑波大学ダイバーシティ担当副学長がその任に就く。

（事務局）
第９条　本協議会の事務局は、筑波大学ダイバーシティ推進室内に置く。
2　事務局は、本協議会の運営実務を行う。

（会議）
第10条　本協議会の会議は会長が招集し、毎年定期的に開催する。
2　会議では、事業報告、事業計画、本会則の改正、本協議会の事業に関する提案・情報提供など、協議会の事業内容について審議し決定する。
3　会議における議決は、本会則に別段の定めのある場合のほか、会議に出席した会員の議決権の過半数で議決する。

（その他）
第11条　本会則に定めるもののほか、協議会の運営及び運営経費について必要な事項は別に定める。

附則
本会則は、平成26年12月12日から施行する。

3. 意識啓発事業

①大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会
実施日	2020年１月20日（月）9:30～12:00
場所	筑波大学　本部アネックス棟１F　会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（討論会）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
来場者	人数：23名（内訳　学長・副学長・大学執行役員８名　系長７名　系長補佐８名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香
内容	筑波大学にて、大学執行部と共に女性研究者の研究環境について考える会を開催いたしました。 大学執行部、系長には昨年に引き続きご参加をいただき、また本年度は、新たに設置された系長特別補佐にご参加いただきました。系長特別補佐の先生方には、各系の中心となりダイバーシティ推進に取り組んでいただき、各系での課題も明確になってまいりました。今回は特に系長と連携を取りながら活動をしていただいた、数理物質系、医学医療系系長特別補佐より、各系の取り組みや、女性教員数だけでなく女子学生数を増やしていくための今後の課題について報告をしていただきました。 また、グループディスカッションでは、「教員の働き方改革について－若手研究者を増やすための方策」をテーマについて議論を行いました。 女性研究者の研究環境の向上においては、女性と男性が協働することが必要となります。大学構成員がライフイベントとキャリア形成を両立できるような環境を整備するために必要なことは何かについて考え、具体的な方策について、意見が交わされました。 「学童保育の開設」「女性教員採用時のポイント還元制度」「在宅ワーク」「女子寮の完備」など多くの提案がありました。 最後に学長から、提案された具体案について、今後アクションに移していきたいという力強いコメントもいただきました。

効果、問題点	執行部・系長・系長特別補佐と多彩な役職や立場の先生方がテーブルを囲んだことで、より具体的なダイバーシティ推進に向けた案があがり、来年度以降さらなる取り組みを実践していきます。 フリートークでは、市内の子育てサポート体制が不十分であることや、保育園の空き状況やベビーシッター割引制度などの情報の周知も不足している事がわかり、早急な対応が必要だとあらためて感じました。

②ダイバーシティリーダーセミナー

実施報告書

プログラム	ダイバーシティリーダーセミナー
課題名	組織をリードしていく女性のための「次世代型インクルーシブ・リーダーセミナー」
実施日	2020年３月５日（木）13:30～17:00
場所	筑波大学　総合研究棟　A111号室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・(ワークショップ)・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	一般　(女性研究者)　学生（大学院生）　(その他（事務職員・技術職員）)
来場者	人数：14名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香
内容 効果	講師として株式会社カレイディストの塚原月子氏をお招きし、上位層育成プログラムの一環として､｢組織をリードしていく女性のための『次世代型インクルーシブ・リーダーセミナー』｣を開催しました。 本学の女性教員・職員を対象に、「自分の強みを理解する事で自己尊重感を高める」「自分らしいリーダーシップの核となる要素を理解する」「リーダーや管理職のやりがい、モチベーション、意義について考える」ことを目的にセミナーを実施しました。 セミナーでは、今後求められるリーダー・管理職像について考えたり、セルフブランディングを通して、自身の強み・弱みを理解し、個性の分析を行いました。また、ケーススタディでは、学んだインクルーシブ・コミュニケーションをどのように活かすか、グループディスカッションを行いました。 受講者からのアンケートでは「自分の弱みはまさに自分が困っている部分だったので改善していくヒントになると思った」や「自分に足りないリーダー資質を自覚することが出来た」「インクルーシブの定義を理解し、自分のコミュニケーション特性を振り返る機会となりました」「自分の意識、モチベーションのあり方で周囲が変わる部分もあると思えた」など前向きな意見をいただくことが出来、満足度が非常に高く、今後の上位層育成プログラムに活かせるセミナーとなりました。

③ダイバーシティセミナー

実施報告書

プログラム	筑波大学第２回全学FD研修会
課題名	ダイバーシティセミナーⅠ 「LGBT等の学生サポートに関する日米対話～学生の安全な居場所とは～」
実施日	2019年６月17日（月）15:00～17:15
場所	筑波大学　東京キャンパス　文京校舎　120講義室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））無
対象者	一般　研究者　学生（大学院生）　その他（　　）
来場者	人数：43名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　センター長　五十嵐浩也／人間系　河野禎之 「SOGI」「LGBT+」「セクシュアル・マイノリティ」
内容	SOGI（Sexual Orientation：性的指向、Gender Identity：性自認）及びLGBTに関わるセクシュアル・マイノリティの理解や啓発活動の一貫として、全米アジア・太平洋諸島系クィア連盟（NQAPIA）のグレン・マグパンタイ氏（事務局長）やマーシャ・アイズミ氏、矢部文氏をゲストとして迎え、米国での学生サポートの在り方について講演をいただくとともに、パネルディスカッションにて日本の状況を踏まえた意見交換を図りました。講演では、米国でもLGBT等の当事者学生が自尊心を持って能力を発揮できる環境を整えることの重要性が認識されていること、当事者学生の親も大学に期待することが大きいこと等が指摘されました。パネルディスカッションでは、学生の立場からのパネリストも交え、LGBT等の当事者学生にとって安全・安心できるキャンパスとは何かについて、活発な意見がかわされました。特に学生のサポートとエンパワメントの両方の視点に基づいた支援の在り方が重要であることが共有されました。
効果、問題点	学外からの参加者も多く、マスメディアの取材も入ったことから、SOGI/LGBT+に関する課題の重要性を多くの大学や組織と共有できたことは大きな成果でした。

筑波大学第２回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター　協力：University Diversity Alliance

2019年 6月 17日（月）15時00分～17時15分
筑波大学 東京キャンパス文京校舎（丸ノ内線茗荷谷駅徒歩5分）**120講義室　※参加費無料**
遠隔中継：筑波大学 筑波キャンパス スチューデントプラザ2F 就職課会議室

ダイバーシティセミナーI

LGBT等の学生サポートに関する日米対話
～学生の安全な居場所とは～

講演「米国のLGBTQ自認の学生サポートに関する枠組み（仮）」

グレン・マグパンタイ氏 全米アジア・太平洋諸島系クィア連盟(NQAPIA)事務局長

所属団体会員を対象とするリーダーシップ研修、移民の権利に関するアドボカシー、LGBT当事者の可視化、「家族の受容」キャンペーンなどのプログラムを監督する。NQAPIA事務局長に就任するまで、公民権弁護士として活躍。ブルックリン法科大学院とハンターカレッジ法科大学院で客員教授を兼任。ゲイ当事者としてのアクティビズム歴は25年近い。既婚。

講演「日本のLGBT等の学生サポートに関する枠組み（仮）」

河野禎之 筑波大学人間系（障害科学域）／DACセンター助教

筑波大学が2016年に設置したLGBT等に関する相談窓口で相談業務を担当するとともに、2017年に公表した「LGBT等に関する基本理念と対応ガイドライン」の策定に関わる等、筑波大学のLGBT等の学生サポート全般を受け持つ。臨床心理士。

パネルディスカッション　グレン・マグパンタイ氏　モデレーター：河野禎之

マーシャ・アイズミ氏

トランスジェンダーの息子の母親。日系三世。母親としての罪悪感、悲しみ、日系人の文化に特有な「恥」を克服し、トランスジェンダー受容のアジア系アドボカシー活動のさきがけとなる。PFLAG（親の会）全米本部理事。著書「Two Spirits, One Heart」（ふたつの魂、一つの心）は、レズビアンとしてカミングアウトした娘がのちにトランスジェンダー男性としてカミングアウトするプロセスを見守る母親としての体験記である。

越智小夏 筑波大学人文・文化学群比較文化学類4年

筑波大学の大学新聞の記者として、筑波大学のほか国内外でLGBT等に関する取材を行ってきた。2018年には筑波大学海外派遣支援事業「海外武者修行支援プログラム」にてオランダに飛び、同国の先進的な取り組みを取材した。

矢部 文 氏（通訳）

レズビアンで既婚の娘の母親。PFLAG NYCのコミュニティーアウトリーチを担当。日本人を含むアジア系LGBTQ当事者とその家族を可視化することで、彼らの存在が当たり前と受け止められるような社会づくりを目指して活動している。アジア系（APIと省略）LGBTQ当事者の団体であるNQAPIAとのコラボレーションで、「家族の受容」キャンペーンに参加し、LGBTQ当事者と保護者向けのワークショップでゲストスピーカーを務める。福島県出身。

申　込：　下記のダイバーシティのHPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　6月 10日（月）※要事前予約
対象者：　筑波大学教職員および学生、関心のある一般の方（学外者の参加も歓迎します）

問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

実施報告書

プログラム	筑波大学第８回全学FD研修会
課題名	ダイバーシティセミナーⅡ 「ダイバーシティとSOGI/LGBT+」
実施日	2019年９月27日（金）13:00～14:30
場所	筑波大学　大学会館　国際会議室
形式	(一般公開)・シンポジウム・(セミナー)・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	(一般)(研究者)(学生) その他（　　）
来場者	人数：31名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース (HP)(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香／人間系　河野禎之
内容	講師にトランスジェンダー当事者として、東京レインボープライドの主催や各種講演活動等を含め、LGBT関連領域で幅広い社会貢献活動を行っている杉山文野氏を招き、性の多様性をテーマとしたダイバーシティ推進の啓発活動として実施しました。講演では、杉山氏の半生を含めた当事者としての思いやキャリア形成、家族観等の多岐にわたる話が展開され、参加者にはジェンダーやキャリアにおける新たな視点をもたらすものでありました。実施後の参加者アンケートでは、90%以上が「内容に満足した」「今日得た情報は今後の役に立つと思う」と回答していただき、非常に有意義なセミナーであったことが示されました。
効果、問題点	アンケートからは、「自分も“ウェルカミングアウト”をすすめたい」「ありのままに生活できる環境づくりに自分も少しでも関わりたい」といった声も寄せられたことから、大学として引き続きそうした思いを後押しできるような取組の必要性を実感しました。

筑波大学第８回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター

2019年 9月 27日（金）13時00分～14時30分
筑波大学 大学会館 国際会議室　※参加費無料

ダイバーシティと SOGI/LGBT+

SOGIとは Sexual Orientation（性的指向）とGender Identity（性自認）の頭文字をとり、性的指向・性自認の多様性を示すために使用される呼称です

講演「さまざまな生き方とキャリアが認められる社会とは（仮）」

杉山 文野 氏　トランスジェンダー活動家／株式会社ニューキャンバス

1981 年東京都新宿区生まれ。フェンシング元女子日本代表。早稲田大学大学院にてセクシュアリティを中心に研究した後、その研究内容と性同一性障害と診断を受けた自身の体験を織り交ぜた『ダブルハッピネス』を講談社より出版。韓国語翻訳やコミック化されるなど話題を呼んだ。卒業後、2年間のバックパッカー生活で世界約 50 カ国+南極を巡り、現地で様々な社会問題と向き合う。帰国後、一般企業に3年ほど勤め、現在は自ら飲食店を経営するかたわら、日本最大のプライドパレードである特定非営利活動法人東京レインボープライド共同代表理事、セクシュアル・マイノリティの子供たちをサポートするNPO 法人ハートをつなごう学校代表、各地での講演会やNHKの番組で MCを務めるなど活動は多岐にわたる。日本初となる渋谷区・同性パートナーシップ条例制定に関わり、現在は渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員も務める。

申　込：　下記のDACセンターのHPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　9月 24日（火）※要事前予約
対象者：　筑波大学教職員及び学生、関心のある一般の方（学外者の参加も歓迎します）
＊ 大学院生は大学院共通科目として受講することも可能です。詳細は大学院共通科目HPを確認してください。

会場までのアクセス例
（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「大学会館前」で下車（10分程度）。バス停から東へ進み、大学会館に入ってください。

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

申し込みフォームへ！

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅢ 「Visualize Your Research ―みんなが作れる研究内容の図解ワークショップ」
実施日	2019年11月19日（火）13:00～17:00
場所	筑波大学　中央図書館　チャットフレームC
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　学生　その他（　　）
来場者	人数：15名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香／人間系　河野禎之
内容	Science Visualizationを専門とする富田誠氏（東海大）を講師として招き、研究内容を研究者自身が視覚化できるようになり、さらに、他の研究者の研究活動との連携をも視覚化するワークショッププログラムとして、本学URA研究戦略推進室とともに共催しました。作図に関するレクチャー、実際の作図の練習、自分の研究課題を伝えるための文字による整理、研究課題の作図、グループディスカッション等の一連のワークについて、丁寧に指導を受けながら進められたことで、参加者一人ひとりが自分の専門とする研究内容について「伝える」ということを明確に意識することができたと感じます。参加者からの満足度も高く、今後の研究者にとって必要なスキルであり、引き続きこうした場を設けてほしいとの声も寄せられました。
効果、問題点	それぞれの専門性をイラスト化した素材を持ち寄ることで、共同研究に向けた具体的なディスカッションを行うことができ、所属組織での開催を検討する参加者も複数見られるほど、有意義な内容となったと実感しました。

等角投影図という図法を使って、研究内容を研究者自身が視覚化できるようになり、さらに、他の研究者の研究活動との連携をも視覚化するワークショッププログラムです。絵心は不要です。
右記URLのページで内容をご確認のうえお申し込みください。

講師　富田 誠 TOMITA Makoto
東海大学教養学部芸術学科准教授

11月19日（火）13:00-17:00　4時間

募集人数　：15名（申込先着順）
募集対象　：研究者および博士課程学生
開催場所　：筑波大学中央図書館チャットフレームC
内容・申込　：http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/archives/19410

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：URA研究戦略推進室

このワークショップは、科学研究費助成金「研究者間の創造的連携を支援する視覚的対話プログラムの開発」研究代表者　富田 誠（東海大学）の研究の一環で行います。
ワークショップの全行程は広角カメラで作業中の様子を撮影（音声を含む）します。予めご了承ください。別途、富田より詳細なご案内をいたします。

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	ダイバーシティセミナーⅣ 「多様な部下がいるチーム運営～ひとりひとりが最大限の能力を発揮するためには～」
実施日	2019年11月22日（金）9:00～12:00
場所	筑波大学　本部アネックス棟１階　１～３会議室
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・(ワークショップ)・その他（　　）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　研究者　学生（大学院生）(その他（事務職員）)
来場者	人数：27名（事務職員）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP (メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香
内容 効果	講師として山口理栄氏（育休後コンサルタント、本学OG）をお招きし、ダイバーシティセミナーⅣ「多様な部下がいるチーム運営～ひとりひとりが最大限の能力を発揮するためには～」をテーマにご講演いただきました。 これまでは事務系女性職員を対象にセミナーを実施してきましたが、今回は組織や部下育成を担う主幹や係長を対象に本セミナーを実施しました。今後の大学運営、組織運営において、人員不足や予算の減少が見込まれる中、介護や育児など多様な働き方をとおし、一人ひとりが最大限に能力を発揮するための組織づくりが求められます。そのため、今後管理職となりうる主幹や係長が組織へのマネジメントや介護や育児中の職員を含む多様な働き方を理解し、組織活性化に繋がるよう、介護や育児中の職員の評価や活用についての意義を考える機会としました。 セミナー実施にあたり、事前に現在育児と仕事を両立している職員へアンケートに協力いただきました。講義の中ではアンケート結果を含めた事例紹介、仕事と育児の両立の現状と課題、管理職に求められること等がありました。その後、ケーススタディによる職場の問題解決」を各グループで実施いたしました。 受講者からのアンケートでは「部下を取り巻く環境を理解する必要があり、育休復帰後に活躍を期待することが重要であることが分かった」や「組織全員で今何のために仕事をしているか“ミッションの共有”が大切であることを理解した」「“育休後職場復帰面談シート”を活用し、積極的なコミュニケーションをとりたい」「部下を持つすべての方に今回の内容を受講してもらいたい」など前向きな意見をいただくことが出来、満足度が非常に高く、今後の組織へ活かせるセミナーとなりました。

ダイバーシティセミナーⅣ

多様な部下がいるチーム運営

～ひとりひとりが最大限の能力を発揮するためには～

令和元年11月22日（金）9：00～12：00

本部アネックス棟1階1・2・3

講師

山口　理栄

（育休後コンサルタント）

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））
課題名	ダイバーシティセミナーV 「研究領域におけるGender Equalityとダイバーシティ推進の壁」
実施日	2019年11月28日（木）14:00～16:00
場所	AP秋葉原（4階「I」「J」）
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））無
対象者	一般　研究者　学生　その他（　　）
来場者	人数：30名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香／人間系　河野禎之
内容	日本各地の大学や研究機関の取組支援に長年関わられてきた科学技術振興機構のプログラム・オフィサーである山村康子氏を講師として招き、大学や研究機関等において共通する未だ高い壁として残る、女性の上位層育成等を含む「意思決定プロセスへの女性の参画」と、補助事業等により整備された組織等の維持を含む「推進体制の持続可能性」に焦点を当てたセミナーを実施しました。山村氏からは、日本の研究領域における女性及びダイバーシティ推進の現状について細かなデータを示しながら解説されたことで、参加者は説得力を持ってこの領域における取組の意義を理解することができました。また、全国各地の先進的な取組についても網羅的に解説されたことで、参加者それぞれが所属する機関でも活用できる情報が多く示されたことから、非常に高い満足度（アンケート回答者の100%）となりました。
効果、問題点	事後のアンケート結果から、「数値化の重要性が理解できた」「各大学の事例が大変勉強になった」等の感想が多く寄せられ、参加者が研究領域における男女共同参画とダイバーシティ推進の「壁」に関する現状を認識し、その突破に向けた示唆を得ることができました。

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群）」
全国ダイバーシティネットワーク組織　関東・甲信越ブロック

ダイバーシティセミナーⅤ

研究領域における Gender Equality とダイバーシティ推進の壁

意思決定プロセスへの女性の参画と推進体制の持続可能性

本セミナーでは、大学や研究機関等に共通して「壁」として残る、女性の上位層育成を含む「意思決定プロセスへの女性の参画」と、補助事業により整備された組織の維持や取組の継続を含む「推進体制の持続可能性」に焦点を当てます。そして、日本各地の大学や研究機関の取組支援に長年関わられてきた科学技術振興機構のプログラム・オフィサーを講師として招き、参加者が研究領域における男女共同参画とダイバーシティ推進の「壁」に関する現状を認識し、その突破に向けた示唆を得ることを目的とします。

2019年11月28日 木　14:00-16:00
終了後、情報交換会を予定

AP秋葉原 4階「I」「J」（東京都台東区秋葉原1-1 秋葉原ビジネスセンター）
※「秋葉原駅」中央改札口より徒歩約5分

講師 ■ 山村 康子氏
科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部 プログラム主管（プログラムオフィサー）

対象　本テーマにご関心のある方はどなたでもご参加いただけます

定員　70名（参加費無料）

申込み　事前予約制。右記QRコードからお申し込みください。
もしくは下記ダイバーシティ担当ホームページからご登録ください。
11月25日（月）締切

お問い合わせ
国立大学法人 筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ担当）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1　TEL：029-853-8504　FAX：029-853-8505
URL：http://diversity.tsukuba.ac.jp/　E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp

主催　筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

④職員向けセミナー

実施報告書

プログラム	職員向けセミナー（業務実務者勉強会）
課題名	ダイバーシティ推進のための取組について
実施日	2019年10月23日（水）9:30～10:30
場所	筑波大学　本部棟５Ｆ　大会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（勉強会）)
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　）(無)
対象者	一般　研究者　学生　(その他（職員）)
来場者	人数：21名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学学生部就職課　秋葉重実就職課長
内容	筑波大学内の現場で諸手続きの窓口となっている職員や支援室、各課で事務処理を行っている職員を対象に、業務担当者が業務の流れや処理方法等について説明、また、お互いに意見を交換することで業務内容の理解を深め、トラブル発生を抑制するとともに、業務の効率化や向上を目指す目的で開かれている「業務実務者勉強会」において、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（以下、DACセンター）で行われている「ダイバーシティ推進のための取組について」と題し、各取組の担当者より概要について説明を行いました。具体的には以下の項目の業務内容を説明しました。 ・DACセンターとは ・障害のある学生の修学支援について ・LGBT等学生の支援について ・育児・介護支援について ・進路進捗の手続き、キャリア形成支援について
効果、問題点	DACセンターの取組を知らない人が、学内にもまだ多くいることが現状です。そのうえで不特定多数の職員に取組を知ってもらえることは効果的であると感じました。今後は、本部の組織・職員課や人事課等の職員へ参加してもらう勉強会の必要性を感じています。

4. 環境整備

①育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業、管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業

筑波大学では平成23年度より、出産・育児等で研究が中断しやすい女性研究者等の研究継続支援事業として、「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」を実施しています。また、平成22年度より、管理運営業務等に携わる男女格差の是正のため、「管理企画業務等の大学運営に参画する女性研究者に対する補助者派遣事業」を実施し、24年度からは、対象者に外国人等を加え、「管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度」を実施しています。

令和元年は育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業とし39名の研究者へ助成を実施しました。

管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業をして６名の研究者への助成を実施しました。本助成を受けた研究者の所属・職階級は以下の通りです。

育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業

所属	職名
生命環境系	准教授
医学医療系	助教
生命環境系	助教
TARAセンター	研究員
TARAセンター	助教
体育系	研究員
睡眠統合	研究員
医学医療系	講師
医学医療系	助教
医学医療系	特任助教
医学医療系	助教
生命環境系	助教
システム情報系	助教
人文社会系	助教
生命環境系	助教
医学医療系	助教
数理物質系	准教授
ビジネスサイエンス系	講師
図書館情報系	助教
体育系	助教

所属	職名
病院	病院助教
医学医療系	准教授
芸術系	助教
医学医療系	准教授
ビジネスサイエンス系	准教授
生命環境系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	助教
生命環境系	助教
計算科学研究センター	特任研究員
人間系	特任助教
数理物質系	助教
医学医療系	助教
医学医療系	講師
医学医療系	講師
生命環境系	助教
生命環境系	准教授
システム情報系	助教
人間系	特任助教

管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業

所属	職名
人間系	人間学群長
人間系	心理学専攻長
人間系	人間系長
人間系	教授
図書館情報メディア系	図書館情報メディア系長
体育系	ヒューマン・ケア科学専攻長

②ベビーシッター割引券

筑波大学では、内閣府が実施する「ベビーシッター派遣事業」を活用し、ベビーシッター割引券を発行しています。仕事と子育ての両立による負担軽減に加え、児童の健全な育成に寄与することを目的とし、サービス利用料金の一部が助成されます。年度ごとの利用状況は以下のとおりです。令和元年度は、新規利用者10名を含む20名の教職員が利用しました。今年度より割引券の利用条件が「各家庭１枚／日」から「児童１名につき１枚／日」に緩和されたことで、多子家庭での利用枚数が大幅に増加しました。また、新型コロナウイルス対策による小学校等の休校に対応するため、３月のみ複数枚の割引券を利用できる特別措置（但しサービス価格内に限る）が設けられ、発行枚数、利用枚数ともに前年度を大きく上回る実績を記録しました。

年度	利用者数	発行枚数	利用枚数
平成22年度	７名	30枚	13枚
平成23年度	３名	15枚	６枚
平成24年度	６名	50枚	34枚
平成25年度	８名	193枚	147枚
平成26年度	８名	185枚	171枚
平成27年度	２名	20枚	18枚
平成28年度	12名	173枚	132枚
平成29年度	12名	366枚	315枚
平成30年度	17名	369枚	309枚
令和元年度	20名	837枚	573枚

③学内育児スペース

本学で働く教職員や本学で学ぶ学生が、子育てと研究活動、業務、学業の両立を支援するため、学内に育児スペースの開設を推進してきました。授乳・搾乳・おむつ替え・妊婦の休憩場所等、一時的な育児スペースとして利用できる場所が、オープンしました。

平成29年12月ヒューマン・ケア科学専攻（総合研究棟Ｄ ７階）に、学内で初めて育児室が開設されました。

子育てをしながら大学院に通う女性が多いヒューマン・ケア科学専攻では、学生たちの要望をきっかけに同専攻により設立されました。備品の寄付や、もうすぐパパになる男子学生がフロアマットを貼るなど、周囲の協力も得て開設されました。対象はヒューマン・ケア専攻に所属する教職員と学生です。

平成31年３月人文社会系（人文社会系棟B201室）に、人文社会系の教職員・学生を対象としてオープンしました。

※利用方法は、各育児ルーム毎に相違はありますが、事前登録制として、鍵の暗証番号を伝え、各自の責任において利用する方法を採っています。清潔（衛生）、安全・安心を第一に、利用者全員が気持ちよく使えるよう呼び掛けています。

令和元年５月医学医療系（医学医療系棟330室）に、医学医療系の教職員・学生を対象としてWomen's Roomがオープンしました。

5. 相談事業

①相談室“あう”とキャリア相談

改訂版リーフレット

開設告知リーフレット

［相談内容の傾向］

令和元年度の相談件数は、過去５年と比較して減少傾向にありました。件数は少ないものの、女性より男性の利用者が多かったことは今年の大きな特徴と言えると感じています。また、利用者の職位や職種に大きな偏りがなく、相談室が以前よりも幅広い層に認知されていることを感じ取ることが出来ました。

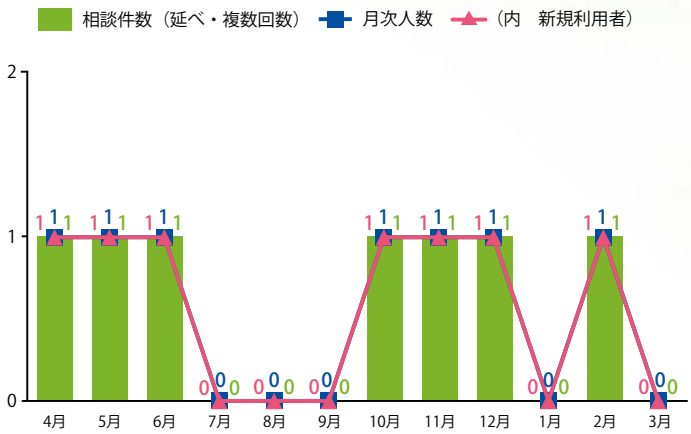


図1　相談月別推移（平成元年度）

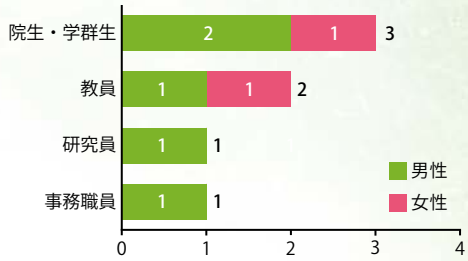


図3　相談者属性別人数

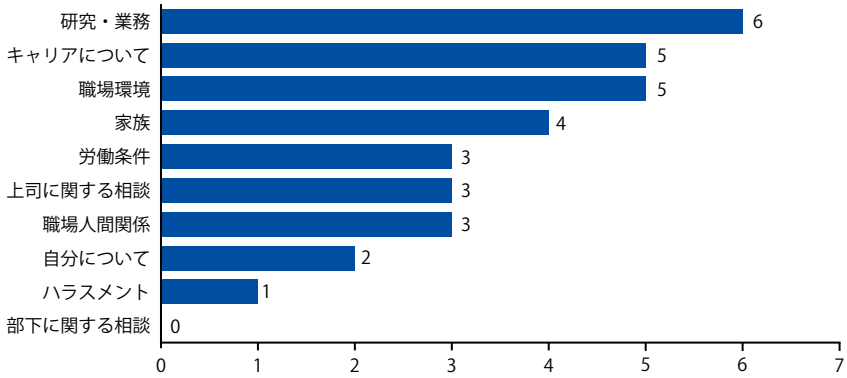


図2　相談内容別人数

［WLB相談室“あう”とキャリア相談］

WLB相談室“あう”では、男性相談者からも「家庭と仕事の両立」や「育児」に関する相談が寄せられました。これまでは圧倒的に女性からの相談が多かったテーマに、男性からの声が増えたことに大きな変化を感じました。ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターでは、以前より出産・育児・介護において、女性だけでなく男性も利用できる制度を紹介し、積極的な利用を推奨しています。こういったサポート制度の認知度が上がったことで、男性教職員が育児に参加しやすくなり、結果として相談内容にも変化が現れたのだと考えられます。

キャリア相談の件数はあうに比べると少ないものの、各系における系長特別補佐の働きかけが成果として表れているのではないかと感じました。系長特別補佐は、主に女性教員や研究員の業務及び研究力向上のためのサポート役として、今年度よりダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが任命し、それぞれの系で課題の抽出や問題の解決にあたっています。系長特別補佐が中心となって、系内での意見をとりまとめ、業務環境の改善等に向けた取組を行ったことが、相談件数の減少に繋がったのではないかと考えます。

［今後について］

相談内容によっては、保健管理センターや産業医、ハラスメント相談センターといった学内の相談機関と連携することが重要になります。WLB相談室“あう”やキャリア相談以外にも相談できる場所があること、専門家の意見を聞くことができることなど、相談者にとって最適な選択肢を提示していくことが大切だと考えます。

また、諸々の事情から来室が困難であったり、躊躇ったりしている相談者も少なくありません。そういった場合、家族や友人の同伴が可能なことを伝えるなど、利用を躊躇う人のハードルを下げて、“相談を諦める理由”を作らないことが大切です。事例として、今年は小さなお子さんを連れた相談者や、信頼できる友人を伴って行きたいという相談者もいらっしゃいました。相談者にとって一番快適な状況でカウンセリングが行えるよう、その人それぞれの要望にあわせた柔軟な対応を心がけたいと思います。

過去の相談室利用者から、「何かあったときにダイバーシティがあると思うと、それだけで救われます。」という言葉をかけられたことがあるように、いつでも誰でも頼れる場所があるということを一人でも多くの学生、教職員に知ってもらうことが大事であると感じています。今後も相談窓口一覧の配布やホームページでの案内などを継続して行うことで、相談室の利用促進に努めたいと思います。

②LGBT相談

令和元年度の相談者は学生からの相談のみで、内訳は学群生５名、大学院生１名からの相談が寄せられました。そのうち、相談内容に関してはカミングアウト（どこまでカミングアウトするべきか等）やトイレの利用（男女どちらのトイレを利用したらよいか）、授業（授業内での呼称等）、セクシュアリティ（自分のセクシュアリティが分からない等）に関する相談が最も多く、ついでセクシュアリティに伴う人間関係（特に恋愛や友人関係）や進路選択に際しての不安、支援情報の入手や健康診断の対応についての相談内容が多くありました。そのほか、SNS上でのトラブルに関する相談等も寄せられました。一昨年度は全体で８名９件、昨年度は８名12件の相談がありましたが、今年度は７名11件でした。また４月から６月など、年度の始めに相談が集中する傾向が認められました。

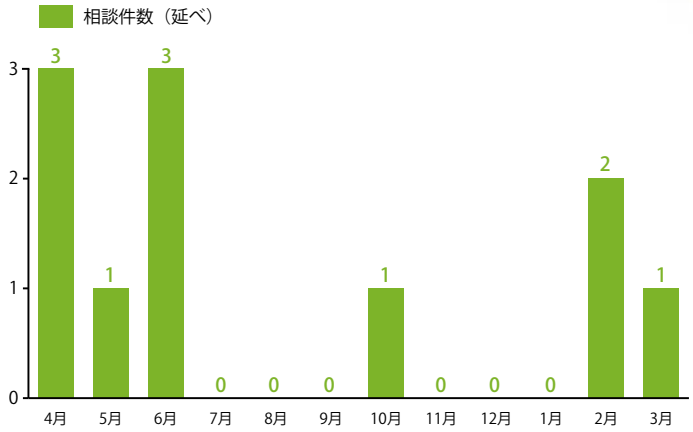


図1　相談月別推移（令和元年度）

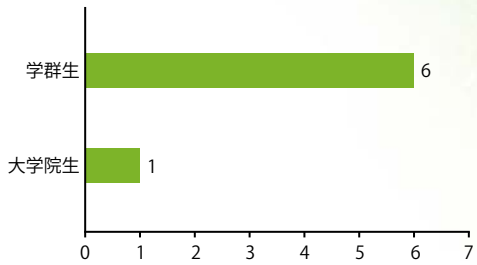


図3　相談者属性別人数

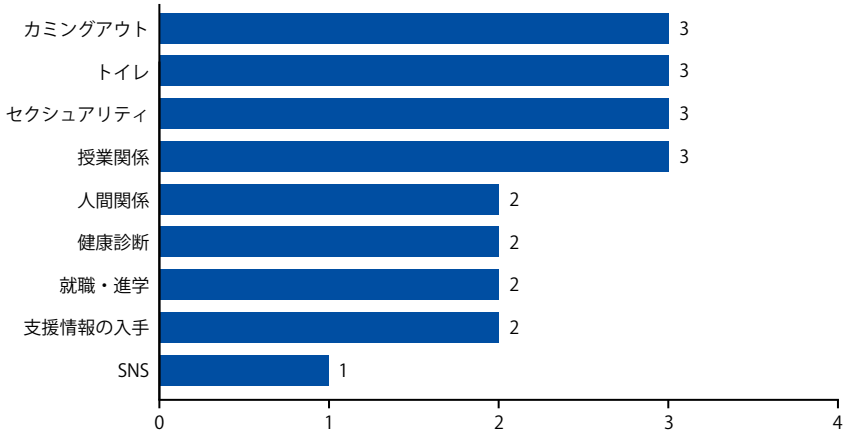


図2　相談内容別件数（複数回答）

＊ セクシュアル・マイノリティとは、LGB（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル）や、T（トランスジェンダー）および性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

セクシュアル・マイノリティ*に関する

筑波大学での学生生活について

相談できます

筑波大学では、平成27年度よりセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取り組みを始めました。

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。

- ○ **氏名の取扱い**
- ○ **使用トイレ**
- ○ **教育実習やインターンシップ**
- ○ **名簿等における性別の取扱い**
- ○ **健康診断**
- ○ **キャリア相談、就職相談　など**

もし何か困ったことや伝えたいことがあれば、下記のダイバーシティ担当の窓口まで相談に来て下さい（電話かメールでの事前受付をしています）

対応可能な内容は個別の状況や大学側の事情にもよるため、必ずしも希望に沿えない場合もありますが、まずはお気軽にご相談下さい。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ担当

TEL: **029-853-8504**　E-mail: **diversity-au@un.tsukuba.ac.jp**

URL: **https://diversity.tsukuba.ac.jp/**　または「**筑波大学ダイバーシティ**」で検索

③相談窓口総覧

学内の相談窓口一覧を作成し、配付しています。

総合相談窓口
General Consultation Service

対象 Recipient
学生・家族・教職員ほか、どなたでも
Students, faculty member, family of students and anyone else

相談内容 Consultation matters
学生生活に関する何でも相談
Consultation on anything about student life

連絡先 Contact information
スチューデントプラザTel: 029-853-8430
春日エリアTel: 029-859-1207
Student Plaza: 029-853-8430
Kasuga Area: 029-859-1207

学生相談室
Counseling and Psychological Services

対象 Recipient
学生・保護者・教職員
Students, faculty member and family of students

相談内容 Consultation matters
学生生活のさまざまな問題や悩み、困りごとに関する相談
（カウンセリングやコンサルテーション）
Consultation on various problems and troubles about student life
(Counseling and consultation)

連絡先 Contact information
受付電話: 029-853-2415（要予約）
Reception: 029-853-2415
(Appointment system)

キャリア・就職相談（学生）
Desk for career counseling (for students)

対象 Recipient
学生・家族
Students and family members

相談内容 Consultation matters
学生のキャリア・進路・就職相談
Career counseling for students

連絡先 Contact information
就職課
Division of Career Services
Tel: 029-853-8444
E-mail: syushokuka@un.tsukuba.ac.jp

キャリア相談（教職員）
Desk for career counseling
(for faculty and staff members)

対象 Recipient
教職員
Faculty and staff members

相談内容 Consultation matters
教職員のキャリア・進路相談
（ポスドクのキャリア相談も可）
Matter of career development

連絡先 Contact information
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Center for Diversity, Accessibility and Career Development
Tel: 029-853-8504
E-mail: career-shien@un.tsukuba.ac.jp

相談室「あう」
Work-life balance counseling room "Au"

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, faculty, staff and family member

相談内容 Consultation matters
ワークライフバランスに関する相談
（ライフイベント等との両立支援や職場環境に関する内容も含む）
Matter of work-life balance and life event support services

連絡先 Contact information
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Center for Diversity, Accessibility and Career Development
Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

We're With You いつでも
相談窓口一覧

発行 (Issued) : 2020.4
University of Tsukuba

精神保健相談
Mental Health Care

対象 Recipient
学生・家族
Students and family members

相談内容 Consultation matters
気分の落ち込み、意欲の低下、不安、不眠などメンタルヘルスに関する相談、治療（学生のみ、有料）
Matter of Mental Health
(Students only, fee-for-service basis)

連絡先 Contact information
保健管理センター
University Health Center
受付電話: 029-853-2411（要予約）
Tel: 029-853-2411
(Appointment system)

健康相談
Health Consultation

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
からだの健康についての相談、応急診療（有料）
Health Consultation, etc.
(fee-for-service basis)

連絡先 Contact information
保健管理センター
University Health Center
Tel: 029-853-2410

LGBT等の相談窓口
Desk for LGBT and other sexual minorities

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, faculty, staff and family members

相談内容 Consultation matters
LGBT等に関する相談
Matter of LGBT and other sexual minorities

連絡先 Contact information
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Center for Diversity, Accessibility and Career Development
Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity-au@un.tsukuba.ac.jp

障害学生支援の相談窓口
Support service for students with disabilities

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
障害のある学生への修学上の支援に関する相談
Study support for students with disabilities

連絡先 Contact information
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
Center for Diversity, Accessibility and Career Development
Tel: 029-853-4584
E-mail: shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp

留学生相談室
International Students Consulting Room

対象 Recipient
学生・家族・教職員
Students, their family members, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
留学生に関連するあらゆる問題や悩みごと（留学生の他に受け入れに関わる教職員全般が対象）
Any issues related to international students (open to all staff members as well as international students)

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-6240、6766
E-mail: gc-support@un.tsukuba.ac.jp

ハラスメント相談センター
Harassment Counseling Center

対象 Recipient
学生・教職員
Students, faculty and staff

相談内容 Consultation matters
ハラスメントに関する相談
If you observe or been the target of behavior you perceive as harassment, contact us.

連絡先 Contact information
Tel: 029-853-8449
E-mail:
stop-harassment@un.tsukuba.ac.jp
or for more information visit university homepage.

（学内専用 On-campus）

6. 裾野拡大・次世代育成事業

①女子中高生向け理系進路選択支援事業

2019年度は茨城県からの委託契約締結を行い、例年実施しているリケジョ合宿に加え、初日には「中高生理工系進学応援シンポジウム」として基調講演と保護者セミナーも開催し保護者の方々にも広く参加者を募りました。さらに近郊の研究機関の協力もいただき、４カ所の研究機関のうち１カ所の見学と体験の場を新たに設け、より多角的な視点からプログラムを実施いたしました。

企画名	2019年女子中高生の理系進路選択支援プログラム
タイトル	１．中高生理工系進学応援シンポジウム ２．リケジョサイエンス合宿
実施日	１．2019年７月31日（水）11:30～16:30 ２．2019年７月31日（水）11:30～８月２日（金）12:30
場所	１．筑波大学　筑波キャンパス　体育芸術エリア５C棟 ２．筑波大学　筑波キャンパス　体育芸術エリア５C棟
参加者	１．中高生156名（うち茨城県内SSH ２校）、保護者・教員34名 ２．女子中高生105名、保護者
内容	１．中高生理工系進学応援シンポジウム（リケジョサイエンス合宿初日含む） ・開会式、基調講演 ・ロールモデル紹介 ・ラウンドテーブルカフェ ・企業・研究所ブース訪問 協力：茨城県、つくば市役所、産業技術研究所、農研機構、科学技術振興機構、茨城県立医療大学、日本IBM、講談社Rikejo、ブルーインダストリーズ、JICA茨城 ・中高生研究発表ブース訪問 SSH：茨城県立竹園高等学校、茨城県立並木中等教育学校 ・閉会式 ２．リケジョサイエンス合宿 ・交流会（筑波大学学生スタッフ企画） ・サイエンス実験体験 ・研究機関の見学・体験 ・閉会式・集合写真

茨城県　つくば市　筑波大学 University of Tsukuba

令和元年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム

リケジョサイエンス合宿と中高生理工系進学応援シンポジウムに参加しませんか？

女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムとして「リケジョサイエンス合宿」と「中高生理工系進学応援シンポジウム」を開催します。初日のシンポジウムは男女問わず合宿に参加しない方も含めて広く参加者を募ります。理系に興味がある方、進路を決めかねている方、ご参加お待ちしております。

リケジョサイエンス合宿 女子のみ

2泊3日「サイエンス」環境にたっぷりと浸りながら、仲間や先輩たちとさまざまな企画に参加できるプログラムです！

- 日時　令和元年 7月31日(水)11:30～8月2日(金)12:30
- 場所　筑波大学　メイン会場：筑波大学 体育芸術エリア5C棟
- 募集人数　100名　応募者多数の場合抽選で決定　事前登録制
- 宿泊先　筑波山ホテル青木屋
- 宿泊費　16,000円　●宿泊費・朝夕食費込　●参加確定後、ホテルへ直接支払い頂きます　●筑波大学までの交通費は自己負担となります　●同伴者 20 名程度も参加できます

1日目 7/31

中高生理工系進学応援シンポジウム 女子・男子保護者

シンポジウムは男女問わず合宿に参加しない方も参加できます！

募集人数 100名 参加無料　当日参加可　※託児ルームあり（事前申込制）

基調講演

山海 嘉之
（筑波大学 システム情報系教授・サイバニクス研究センター研究統括 CYBERDYNE 株式会社代表取締役社長/CEO）

プロフィール

筑波大学教授、CYBERDYNE社CEO（筑波大学発ベンチャーとして起業し株式上場達成）。新領域【サイバニクス：人・ロボット・情報系の融合複合】を創生。脳神経・筋系の疾患を治療する革新的サイバニックシステム「HAL®医療用」の開発で知られる。サイバニクスを駆使することで、社会課題解決のための革新技術の創出、新産業創出、開拓型人材育成を同時展開しながら、好循環のイノベーションを推進。

パネルディスカッション

ロールモデルとなる世界で活躍する研究者の経歴や仕事の魅力についてお話しします。

- **山岸 裕美**（アサヒビール株式会社 生産本部 製品保証センター所長）
- **穂苅 遼平**（産業技術総合研究所 集積マイクロシステム研究センター 光マイクロナノシステム研究チーム）
- **竹田 千恵**（日本IBM株式会社 IBMシステム事業本部 ソリューション事業部）

ラウンドテーブルカフェ 女子のみ 事前登録制

グループに分かれ、女性研究者を囲んで自由に交流できます。

保護者セミナー 事前申込または当日参加OK

現役大学教員と企業、研究所職員がリケジョの保護者の悩みにお答えします！

講演

山口　香
（筑波大学 体育系教授 DACセンター副センター長 日本オリンピック委員会理事）

保護者のための！実験体験

小林正美
（筑波大学 数理物質系 准教授）

●パネルディスカッション登壇者も参加します！

企業や研究機関、大学による展示ブース

企業や研究機関、大学の研究開発や研究職のキャリアに関する展示ブースです。誰でも自由に参加し、交流することができます。

2日目 8/1

▶サイエンス実験体験

筑波大学の理系分野の研究室にて科学実験を体験します。午前と午後の2回体験できます。研究室の詳細は裏面をご参照ください。

1日目・2日目開催　宿泊交流（グループワーク、学生発表会）

3日目 8/2

▶研究機関の見学・体験

要事前申込

※4つの研究機関のうち1つを選択し見学します。

❶宇宙航空開発機構（JAXA）
日本の宇宙開発の拠点 筑波宇宙センターをガイド付きで見学。国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」の運用管制室と宇宙飛行士の選抜や基礎訓練を行う宇宙飛行士養成棟をめぐります。※見学希望者は、写真付き身分証明書が必須となります。

❷高エネルギー加速器研究機構
【光の工場】フォトンファクトリー（放射光科学研究施設）さまざまな物質や生命の姿を、原子・分子のレベルで見るための光「放射光」と作り出す施設の見学です。

❸森林総合研究所　生物多様性別棟
鳥獣、昆虫、樹木の葉と木材の研究用標本が所属されている博物館のバックヤードのような施設です。トキなどの貴重な生物の標本がたくさんあります。

❹筑波大学 グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラム
学生たちが現場力、魅せ方力、分野横断力を磨く場所　エンパワースタジオを見学。世界最大級のVRシステム「Large　Space」を体験していただけます。

▶グループワーク発表

グループワークの発表会を行います。

主催　茨城県・つくば市・筑波大学
後援　つくば女性研究者支援協議会

申込締め切り：令和元年7月7日（日）
申込はWEBで！▶

詳細は裏面へ！

筑波大学　リケジョ NEWS LETTER

令和元年9月

2019年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム「中高生理工系進学応援シンポジウム」及び「リケジョサイエンス合宿」

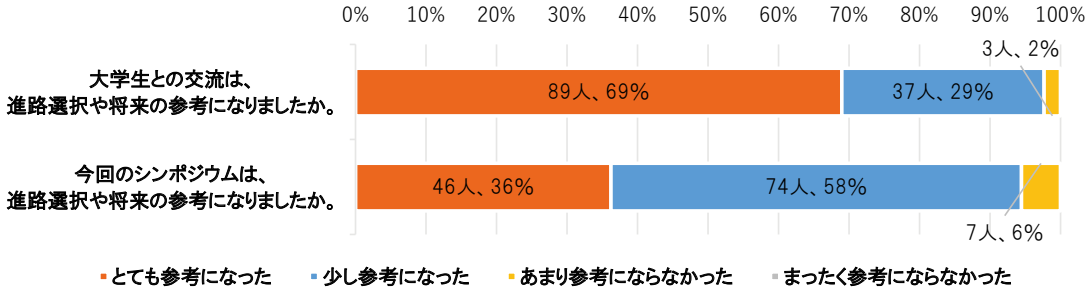
「中高生理工系進学応援シンポジウム」と「リケジョサイエンス合宿」を行いました！

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ担当では平成25年度より「リケジョ合宿・カフェ」を企画し、女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムを実施しています。

本年度も、リケジョサイエンス合宿に加え、初日に「中高生理工系進学応援シンポジウム」を実施し、多くの参加者を募りました。シンポジウム156名、合宿105名の全国の女子中高生と保護者34名が参加してくださいました。特に合宿参加希望者は定員100名の中、193名と過去最高の応募者数となりました。さらに近郊の研究機関・企業やつくば市内の高等学校にも協力いただき、参加者と理系研究者の方々との交流の場や中高生の研究発表の場を設け、本年度新たに行った、基調講演・保護者セミナー・施設見学においても、知識が更に増え研究への情熱を感じていただく事が出来ました。

事後アンケートの結果から、研究者の方々との交流によって将来についての不安を軽減し、より具体的に考える機会になったという声を多くいただきました。貴重な3日間を過ごしていただいたと実感しております。

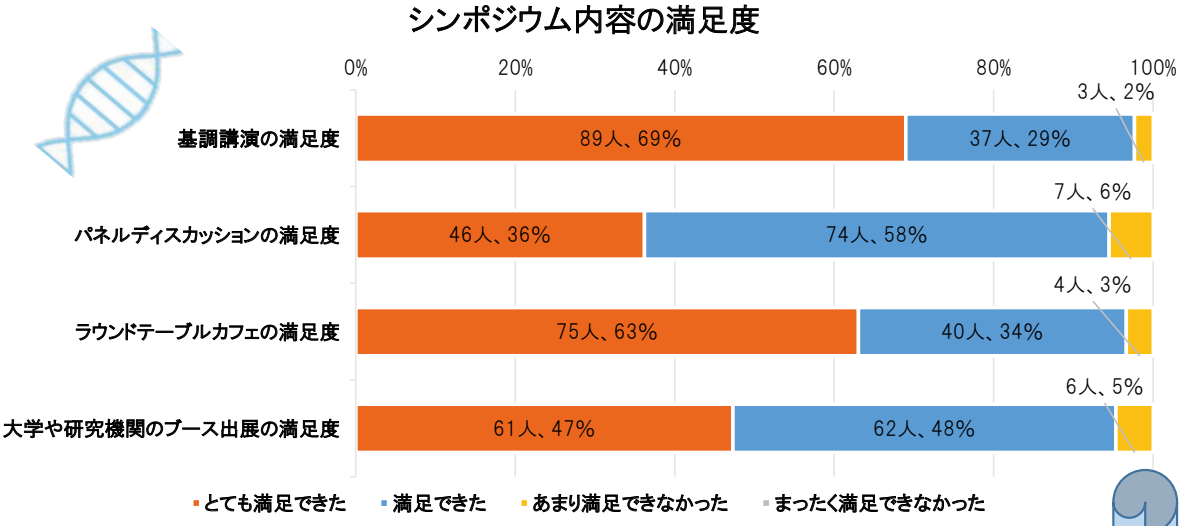
進路選択・将来の参考になったか



中高生理工系進学応援シンポジウムアンケート調査結果

事後アンケート結果から、「自分自身の考え方や見方が変わり進路が明確になった。」「進路選択について悩みが減り、アプローチの仕方がたくさんあると知った。」などと前向きな感想を多くいただきました。

シンポジウム内容の満足度



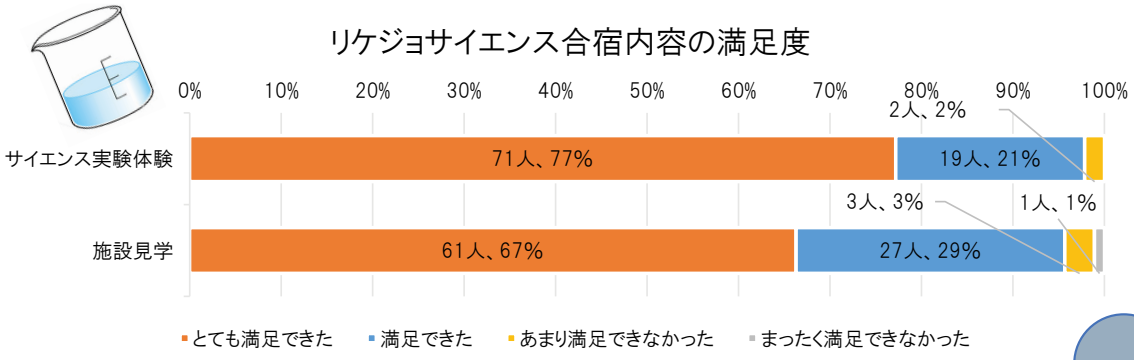
・どの方々も、自分の夢ややりたい事を追い続ける事が大事だとおっしゃっていたので、「面白い！」や「スゴイ！」の感情を大事にしていきたい。
・ラウンドテーブルカフェでは、講師の方の中学・高校時代の話しも聞いたり交流ができて楽しかった。
・いろんな研究機構の人たちと交流することが出来た事は、貴重な経験となった。
・これからも目標に向かって頑張っていきたいと思いました。
・山海先生のお話が面白かった。

参加した保護者から

・知識が増え楽しかった。娘と、今日の楽しかったことを共感できることがうれしい。筑波大学に進ませたいと思った。
・目標を決めて、そこからどうするかが重要であると、考えさせれた。

リケジョサイエンス合宿アンケート調査結果

リケジョサイエンス合宿では、「様々な研究分野があるという事を知った。」や「大学のパンフレットには載ってないことを沢山知り体験することがができた。」など新たな知識を取り入れることができた声が多くありました。



・実験体験をさせてもらう事で身近に感じることが出来た。大学生になったら何がしたいか考えが広がった。
・大学の中の研究室に入ったことによって「入りたい」という希望が強まった。
・普段入れないような施設に入れてよかった。全国各地の人と話せた。
・他県の人は、受験に関する意識が高くて刺激を受けた。
・ずっと好きだった科学を本格的に学びたいと強く思うようになった。でも、今科学と決めずに様々なことに目を向けていきたい。
・サイエンス実験体験で手伝ってくれた大学生をみていてとても研究が楽しそうで研究の道も考えようとおもった。
・理系に進む覚悟ができた。理系・文系という概念にとらわれずまんべんなく学習を進め極めたいものをみつけていきたい。

ご協力いただいた講師の方々より一言

沢山悩んで下さい！考えてください！そのプロセスに色々な人の意見に耳を傾けることをしてください。考え抜いて出した自分の答えは宝。 悩める時間こそ宝物。大切に考え抜いてください。応援しています.

面白そう！と思う方向へ突き進んでください。

夢は、思い続けていれば、形を変えても実現に近づきます。応援しています。

エネルギー問題は，理科と社会の両方にかかわる問題です．中学生･高校生のうちに幅広い視点を養って，世の中全体を見渡せる社会人になってくれることを期待しています．

学生スタッフの方々より一言

将来については型にはまりすぎず、広く考えてみるといいと思います。自分のやりたいことは全力でチャレンジしてください。

日々勉強に追われるのが学生時代ですが、自分の興味関心も忘れず、夢に向かって頑張ってください。

普段出来ないことがたくさんでき、貴重な機会になったと思います。この機会をきっかけに、みなさんの学習への興味･関心が深まればいいなと思います。

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
編集・発行　〒305-8577　茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL:029-853-8503　E-mail: rikejo@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp/

②学群総合科目・大学院共通科目

ダイバーシティ担当では、学群生を対象とした学群総合科目、自由科目（特設）を春学期と夏季休業中、秋学期に開講しています。また、大学院生を対象とした大学院共通科目を夏季集中授業として開講しています。令和元年度の受講生数はおよそ延べ200人を数えました。いずれの授業においても、男女共同参画のほか、障害や文化、LGBT等といった様々な分野でのダイバーシティ推進に関する課題を学生と共有し、その解決に向けて学生が主体的に考え、行動することを目指しています。

授業科目名	ダイバーシティスタディーズ入門		
科目番号	1B26101	単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2年次	時間割	秋 AB 月 2
授業内容	**第１回［イントロダクション+グローバル化時代のダイバーシティ］** 授業の狙い、ダイバーシティスタディーズの意義などについて概説します。グローバリゼーションの進化に伴って複雑化する、国家や社会の多様性について考察を加えます。 **第２回［ダイバーシティと異文化/国際開発］** ダイバーシティをめぐる諸問題について、特に異文化や国際開発の観点からどのような課題が生まれ、その解決のための取り組みが行われているのかを学びます。 **第３回［実践への導入（１）ダイバーシティと市民社会組織］** ダイバーシティをめぐる諸問題に対する市民社会組織（e.g. NGO）による実践的取り組みを学びます。 **第４回［実践への導入（２）ダイバーシティと企業］** ダイバーシティをめぐる諸問題に対する民間企業の実践的取り組みを学びます。ゲストスピーカーとして企業の人事スペシャリストを招きます。 **第５回［ダイバーシティと障害］** ダイバーシティと障害（とくにインクルーシブ教育）との関係、そのための支援や対応のあり方を学びます。 **第６回［ダイバーシティと社会福祉］** ダイバーシティをめぐる諸問題について、社会福祉の観点から、特に認知症をトピックにその実践的取り組みを多角的に学びます。 **第７回［ダイバーシティと福祉と経済］** ダイバーシティをめぐる諸問題について、福祉の視点、経済の視点、経営の視点から検討します。 **第８回［ダイバーシティと性］** LGBTなど性に関するダイバーシティの課題について理解を深めます。 **第９回［グループディスカッション］** プレゼンテーションの準備作業の一環として、各グループが設定した課題についてグループごとに討議します。 **第10回～第11回［総括］** 各回講義の内容を結びつけ、体系的な理解を促します。グループごとにプレゼンテーションを行ないます。コメンテーターも置きます。試験に代えてレポートを課します。		

2019年度 自由科目（特設）【8320404】

科目名「ワークライフ学－男女共同参画とダイバーシティ－」

ダイバーシティ × ワーク・ライフ・バランス

大学院生も参加歓迎！

ワークショップのみ参加も可！

さまざまな可能性（多様性）の中で働くこと、生きることを知ろう！

※ 要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、大学院生及び2日目のみの参加の場合は単位は出ません。

9月19日（木）10時～17時 @3B213

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティを理解するための講義とグループワーク

9月26日（木）13時～17時 @3B213

（ワークショップ）多様な働き方とキャリア形成に関する話題提供（テーマと講師は下記参照）とグループワーク

話題提供

「ワークライフミックス～あなたのライフデザインは？～」

光畑 由佳 氏 有限会社モーハウス／特定非営利活動法人子連れスタイル推進協会

10月 4日（金）10時～12時30分 @つくば国際会議場

「筑波会議」で開催されるダイバーシティ関連セッションの聴講　※他授業の履修のために参加できない場合は申し出ること

履修登録期間：~~9月12日(木)まで~~ 7月31日(水)まで　　担当教員：河野禎之（人間系/DACセンター）

履修の問い合わせ：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター　diversity@un.tsukuba.ac.jp

★ 大学院生の受講希望や2日目のみの参加希望はDACセンターHPより事前申し込みをお願いします。

★ 単位履修のためには3日間の出席を前提としていますが、10月4日が他授業のため参加できない場合は申し出てください。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

2019年度 大学院共通科目【01ZZ520】

科目名「ダイバーシティとSOGI/LGBT+」

ダイバーシティ × セクシュアル・マイノリティ

さまざまな可能性（多様性）の中で
働くこと、生きることを知ろう！

学群生も参加歓迎！

講演部分のみ参加も可！

※ 要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、学群生及び講演のみの参加の場合は単位は出ません。

9月20日（金）10時～17時 @大学会館マルチメディアルーム

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティ、セクシュアル・マイノリティを理解するための講義とグループワーク

9月27日（金）13時～17時 @大学会館国際会議室・マルチメディアルーム

（講演）セクシュアル・マイノリティに関する講演（テーマと講師は下記参照）とグループワーク

講演（13時～14時30分）

「さまざまな生き方とキャリアが認められる社会とは（仮）」

杉山 文野 氏 株式会社ニューキャンバス代表/トランスジェンダー活動家

10月 4日（金）10時～12時30分 @つくば国際会議場

「筑波会議」で開催されるダイバーシティ関連セッションの聴講　※他授業の履修のために参加できない場合は申し出ること

履修登録期間：9月13日(金)まで　　担当教員：河野禎之（人間系/DACセンター）

履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp

★ 学群生の受講希望や講演部分のみの参加希望はDACセンターHPより事前申し込みをお願いします。

★ 大学院共通科目の単位履修のためには3日間の出席を前提としていますが、10月4日が他授業のため参加できない場合は申し出てください。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

③イノベーション・インターンシッププログラム

課題管理実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	研究型インターンシップ報告会＆企業説明会
実施日	2019年５月22日（水）12:15～16:30
場所	筑波大学　大学会館　国際会議室、特別会議室、第１会議室
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・(その他（企業との交流会）) 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））(無)
対象者	一般　(研究者)　(学生（大学院生）)　(その他（教職員）)
来場者	人数：149名（内訳　大学院生117名　教職員10名　そのほか22名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香
内容	産学協働イノベーション人材育成協議会に参画している企業及びつくば女性研究者支援協議会に参画している研究機関等から合計15社をお招きし、本学学生（修士・博士）への研究型インターンシップ（以下、IS）についての説明会及び平成30年度に同協議会の企業へ研究型IS派遣された学生の報告会を行いました。
効果、問題点	産学協働イノベーション人材育成協議会の事業紹介や、各社から研究型ISについての説明が行われ、後半は３タームに分けて、学生が興味のある企業や研究機関のブースを訪問し、説明を受け、最後の50分間のフリータイムでは学生と企業や研究機関の方々が自由に交流をする場といたしました。 110名を超える参加学生からのアンケートでは「研究職のことやインターンシップの重要性を知ることが出来て良かった」「インターンシップ参加へのモチベーションがあがった」「実際にISへ参加した学生の生の声をきき、自分自身も参加してみたいと思った」「企業のホームページを見るだけではわからないことを直接社員の方とお会いすることで色々聞くことができて良かった」「１つ１つの企業を深く知ることができた」「知らなかった企業のことや事業内容を知る良い機会だった」などの意見がありました。

大学院生・ポスドクのための
キャリアデザインイベント

「産業界とその研究職」について知る

研究型インターンシップ 報告会＆企業説明会

5/22（水）
12:15-16:30

筑波大学 大学会館
国際会議室（3F）｜特別会議室

プログラム

11:30～ 受付開始

- 12:15 主催者挨拶／インターンシップ報告会
- 12:45 参加企業プレゼンテーション（5分 × 10社程度）
- 13:45 14:00 学生と企業の交流会
  - 30分 × 3回
  - ＋
  - フリータイム（45分）
- 15:40
- 16:30

国際会議室　特別会議室

各分野のリーディング企業の研究者と直接話せる
研究型インターンシップに参加するチャンス
企業の研究者と人脈を広げるチャンス

会員企業

産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業・ダイバーシティ推進企業 から 10 社程度

島津製作所／清水建設／住友化学／住友電気工業／住友電装／住友理工／住友林業／ダイキン工業／大日本印刷／竹中工務店／DMG森精機／電力中央研究所／東レ／巴川製紙所／日本触媒／日本ゼオン／日本総合研究所／日本電信電話／パナソニック／日立化成／富士フイルム／堀場製作所／マツダ／三菱重工業／三菱電機／村田製作所／ヤフー／横浜ゴム／楽天／リコー／ロート製薬／日本IBM／産業技術総合研究所

※参加企業及び研究機関は当日会場にて発表します。

筑波大学の
理系大学院生
ポスドク
（博士人材） 向け

※文系の方はお問い合わせください。

産学協働イノベーション人材育成協議会の
研究型インターンシップ
に挑戦しませんか？

問い合わせ先
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（担当：三浦）
career@un.tsukuba.ac.jp

参加申し込み
4/10(水)～5/20(月)

筑波大学就職課ホームページ
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
※HPから参加登録できない場合はメールでも申し込み可能です。

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

課題管理実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	2019年度企業等訪問バスツアー
実施日	2019年６月14日（金）10:00～16:15
場所	大日本印刷株式会社つくば総合開発センター、 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・ その他（企業・研究所訪問）
	展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））無
対象者	一般　研究者　学生（大学院生）　その他（教職員）
来場者	人数：９名（内訳　大学院生８名　教職員１名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　HP　メール発信 その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香
内容	産学協働イノベーション人材育成協議会に参画している大日本印刷株式会社つくば総合開発センター及びつくば女性研究者支援協議会に参画している国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構へ本学学生（修士・博士）とともにバスで訪問させていただきました。 各研究所見学では、事業紹介や研究内容の説明、本学OBOGや研究者の方々との交流会等をとおし、仕事内容や研究職、インターンシップ情報など今後の研究や就職活動に繋がる機会となりました。
効果、問題点	本バスツアーでは、普段見学することが困難な研究室や検査場、居室なども見学することもでき、また、実際に研究職として活躍されている本学OBOGや研究職の方々との交流会をすることで、参加学生の今後のキャリアや研究、就職活動に繋がることができました。 博士後期課程の学生が参加者の半分を占める割合となっておりました。 参加学生からのアンケートでは「異業種を複数見学できたのは視野が広がって勉強になった」「本学OBOGと直接話をすることができてより具体的にイメージできて良かった」「長期型インターンシップ説明会で気になっていた会社を直接見学することができ、充実した情報収集を行うことができた」「今後のキャリアパスを考えていく上でとても参考になる話がたくさん聞けてとても有意義な１日だった」などの意見がありました。

企業等訪問バスツアー

～企業や研究内容のリアルを知るチャンス！～

2019年6月14日(金)

先着20名限定

参加無料

社員の方や研究者の方との交流会

時間 10:00-16:15（集合9:15）

集合場所 筑波大学本部棟及び見学施設

対象 理系大学院生・学群4年生（大学院進学予定限定）
※文系学生はお問い合わせください。

訪問先 大日本印刷株式会社　つくば総合開発センター
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
※産学協働イノベーション人材育成協議会及びつくば女性研究者支援協議会に登録しています。

昼食懇談会あります

9:15 筑波大学本部棟 → 午前 **大日本印刷** つくば総合開発センター → 午後 **農研機構** → 16:15 筑波大学本部棟

募集期間　5/27（月）- ~~6/4（火）~~ 6/7（金）12:00まで延長！
※定員になり次第、終了となります。
筑波大学就職課ホームページ
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career

お問い合わせ

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（担当：三浦・大園）
TEL：029-853-5706　E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp

課題管理実施報告書

プログラム	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
課題名	「大学院生・若手博士人材と企業との交流会」＆ 「大学院博士後期対象採用のための合同企業説明会」
実施日	2019年９月25日（水）10:30～15:40
場所	オークラフロンティアホテルつくば　アネックス棟　昴の間
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・ (その他（ポスター発表、企業との交流会）)
	展示物：(有)（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　(その他（ポスター発表）))　無
対象者	(一般) (研究者) (学生（大学院生（前期・後期）)) (その他（ポスドク、教職員）)
来場者	人数：81名（内訳　大学院生42名　教職員11名　そのほか28名）
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP) (メール発信) (その他（Twitter）)
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　副センター長　山口　香
内容	産学協働イノベーション人材育成協議会に参画している企業及びつくば女性研究者支援協議会に参画している研究機関等から合計14社をお招きし、本学学生（修士・博士）やポスドクからポスター発表を行い、その後企業との交流会を開催しました。また初の試みとして大学院博士後期学生及びポスドクの方を対象とした合同企業説明会を開催しました。また近郊の他大学の学生にも参加いただけるよう企画しました。
効果、問題点	産業協働イノベーション人材育成協議会の事業紹介をはじめ、当日出展企業の方々から簡単に紹介を行い、その後、第１部では前半と後半にわかれ大学院生及びポスドクの方からポスター発表を行いました。ポスター発表では自身の研究内容に加え、自己PRも含めた発表が行われ、発表をきいた学生や教職員、企業の方々からフィードバックシートをとおして評価や助言等が得られる貴重な機会となりました。第２部では、軽食をとりながら、出展企業の方々と大学院生及びポスドクの方との交流会を行い、気軽に交流ができる場となりました。第２部終了時には、大学院前期課程の学生は退席となり、第３部より大学院博士後期学生及びポスドクの方を対象とした合同企業説明会を開催しました。最後には学生やポスドクの方がいくつものブースを訪問できるフリータイムを設けました。

今回の特長として、博士後期及びポスドクの方が参加学生全体の87％と大半を占め、本イベントをきっかけとして採用にも繋がりました。

参加した学生及びポスドクの方へのアンケートでは「ポスター発表のポスターを作成する過程で自身を振り返ることができた」「ポスター発表した後のフィードバックが今後の研究に活用できそう」「企業の方が研究のどのような面を重視しているか分かった」「各企業の方々と話をする時間をじっくりととることができ、充実していた」「就職活動を始めるきっかけを作れた」「自分の就活の大きな一歩になったことと、企業の方に興味をもっていただけたことがとても充実したものになった」などの前向きな意見が多くありました。

大学院生・若手博士人材と企業との交流会

参加者募集！

2019年**9月25日**(水)10:00～15:40

オークラフロンティアホテルつくば

業界研究や自己分析を通して、自分の将来を真剣に考えるきっかけに！

- 研究者や人事担当者と直接話ができる！
- インターンシップの情報収集に！
- ポスター作成を通して自己理解を深められる
- ポスター発表により自己PRできるチャンス

出展企業13社が決定しました!!

- 野村ホールディングス
- 京セラ株式会社
- 第一三共株式会社
- 株式会社リコー
- サンディスク株式会社
- 三菱電機株式会社
- パナソニック株式会社
- 株式会社日本入試センター
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
- 大日本印刷株式会社
- アステラス製薬株式会社
- CYBERDYNE株式会社

スケジュール

ポスター作成が初めてでも大丈夫！
DACセンターが万全の体制でサポートします！
（内容の個別相談・印刷）

10:00　受付
10:30　挨拶

第１部・第２部対象者　大学院（修士）　大学院（後期）　ポスドク

10:40-10:50　企業挨拶
11:00-13:00　第１部　学生によるポスター発表
13:00-14:10　第２部　企業との交流会（軽食付き）

第３部対象者　大学院（後期）　ポスドク

14:30-15:40　第３部　大学院博士後期対象
採用のための合同企業説明会

申込締切
第１部　**9/2（月）申込締切**
第２・３部　**9/17（火）申込締切**

https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
筑波大学就職課ホームページ
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録！

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL 029-853-5706　E-mail career@un.tsukuba.ac.jp　URL https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/

7. LGBT等への対応

筑波大学では、平成27年度よりLGBT等[1]のセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から、大学として支援の取組を始めました。具体的には下記のような取組を開始しています。

●相談窓口の設置
●授業やセミナー、学内FD等での啓発
●基本理念と対応ガイドラインの作成
●アライグッズの作成　等

とくにトランスジェンダーや性別に違和を持つ学生には、次のような点についてこれまでも対応しています。
○ 氏名の取扱い　○ 名簿等における性別の取扱い
○ 使用トイレ　　○ 健康診断
○ 教育実習やインターンシップ　○ キャリア相談、就職相談など

■授業・セミナー・FD実績

LGBT等に関するテーマを取り扱う授業として、学群総合科目「ダイバーシティ＆インクルージョン入門」（春学期）や「ダイバーシティスタディーズ入門」（秋学期）、学群自由科目「ワーク・ライフ学　－男女共同参画とダイバーシティ－」（夏季集中）、大学院共通科目「ダイバーシティとSOGI/LGBT+」（夏季集中）を実施しました。

また、平成30年３月に改訂した「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」の周知や、LGBT等に関する意識啓発のため、全学FD研修会（６月17日、９月27日）のほか、就職課／DACセンター（４月19日）やヒューマン・ケア科学専攻（12月２日）や医学群（１月24日）で教職員向けてのFD/SD研修会を実施しました。また、Diversity Awareness Week 2019では、昨年度から引き続き認定NPO法人グッド・エイジング・エールズとの共催で「OUT IN JAPAN ＠筑波大学」を附属中央図書館にて開催しました。また、つくば駅近くのBiviにて「LGBTQA茨城県人会議@つくば」を実施しました。さらに学外での活動として、龍谷大学（４月24日）、山口大学（６月４日）、埼玉県いのちの電話（６月23日）、地域科学研究会・高等教育情報センター（７月９日）、茨城県民大学（８月～９月）、北里大学（８月29日）、神奈川大学（９月３日）、一橋大学（９月18日）、東北大学（12月12日）、茨城県立医療大学（12月24日）、福山市立大学（１月22日）、名古屋女子大学（２月14日）にて本学の取組について講演を行い、積極的な情報発信と情報共有に努めました。

[1] LGBT等とは、Lesbian（レズビアン）・Gay（ゲイ）・Bisexual（バイセクシュアル）・Transgender（トランスジェンダー）及び性別に違和をもつ人を含め、多様なセクシュアリティの人を指しています。

筑波大学
University of Tsukuba

LGBT+

等*に関する
筑波大学の基本理念と
対応ガイドライン

*LGBT等とは、Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender及び他のセクシュアリティを含む総称とします。
これらカテゴリーに直接当てはまらない当事者もいますが、本基本理念とガイドラインにおいては包摂しています。

本基本理念・ガイドラインは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示」(CC BY 4.0) により利用できます。

Center for Diversity, Accessibility and Career Development
University of Tsukuba

国立大学法人 筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 スチューデントプラザ2階　Tel：029-853-8504
E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp　https://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成29年3月初版
平成30年3月改訂
令和2年3月改訂

Printed by ISEBU Co., Ltd.

CONTENTS

04 Ⅰ 筑波大学におけるLGBT等の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念
Basic principles on prohibition and resolution of discrimination based on sexual orientation and gender identity of LGBT+ at University of Tsukuba

06 Ⅱ LGBT等に関する概要と本学での支援体制

07 Ⅲ 現状での具体的対応と方針
07 凡例
07 1 相談について
07 ① 相談窓口
08 ② 相談の流れ
08 ③ 学生相談及び保健管理センター（精神科）等との連携
09 2 氏名・性別の情報とその管理について
09 ① 氏名の変更
09 ② 性別の変更
10 ③ 性別情報の取り扱い
11 ④ 大学の発行する証明書の性別記載
11 ⑤ 大学に提出する諸書類における性別情報の記入
12 3 授業について
12 ① 体育実技の履修、更衣室、用具の配慮
12 ② 学外実習（教育実習等）の履修
12 ③ 授業におけるグループ分け
12 ④ 授業等における呼称
13 4 学生生活について
13 ① 定期健康診断
13 ② 学生宿舎
13 ③ 多目的トイレ
13 ④ 入学式・卒業式の服装と身なり
14 5 就職活動・キャリア支援について
14 ① 就職活動・インターンシップへの支援体制
14 ② LGBT等当事者にとっての就職活動
14 ③ 本学におけるLGBT等当事者へのキャリア支援
15 6 周囲の対応、特にカミングアウトについて
15 ① カミングアウトとは
15 ② 自己決定と情報のコントロール
15 ③ カミングアウトとアウティング
16 ④ カミングアウトが必要なときには
16 ⑤ カミングアウトされたときには
16 ⑥ 周囲の対応について
17 7 教職員への対応について
17 ① パートナーがいる教職員の福利厚生について
18 ② 申請手続きについて

19 Ⅳ 対応項目一覧

22 Ⅴ おわりに

23 付録　ツールボックス
23 (1) 相談の際に
23 (2) 自分を見つめてみる
24 (3) 卒業・修了後の証明書発行における氏名の変更について
24 (4) 学外に提出する書類の性別記載について
24 (5) マイナンバーカードについて
25 (6) 体育の授業における男女別要素について
25 (7) 多目的トイレについて
25 (8) 就職活動の前に
26 (9) 就職活動について：LGBTフレンドリー企業等の指標
26 (10) 自分を偽るというつらさ
27 (11) カミングアウトしない生き方～クロゼット～
27 (12) カミングアウトを強要しないで
28 (13) カミングアウトの前に
28 (14) カミングアウトされたときに
29 (15) メディアや作品により作られるステレオタイプ
29 (16) 当事者を支援したいという方へ

30 巻末資料（相談窓口一覧・LGBT等の相談窓口ポスター）

別冊　ワークシート（CARIO-NEXT Lワークシート群）
※印刷版は1D棟スチューデントプラザ２階のキャビネットで配布しています。電子ファイルは、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）のウェブサイトで公開しています。（https://diversity.tsukuba.ac.jp/）

Diversity Awareness Week 2019

OUT IN JAPAN
@筑波大学

2019年 12月 16日(月) ～ 20日(金)
筑波大学中央図書館 2F 入口すぐ　常設展示

- 認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催
- プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、30枚の当事者の写真とメッセージを展示
- 多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に触れることのできる機会です

問い合わせ先

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

詳細はこちらから

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

good aging yells
LGBTと、いろんな人と、いっしょに。

CARIO-NEXT 活用ガイド

つくば Career Portfolio

CARIO-NEXT Lワークシート

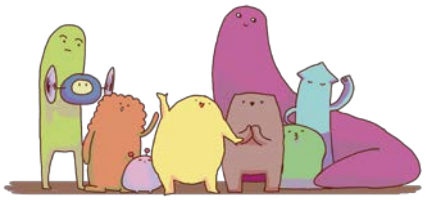
「あなただけの、あなたの強さ。」

CARIO-NEXT Lワークシートとは？

筑波大学はあらゆる面で「開かれた大学」という理念のもと、多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究を目指しています。本来違いを持つ学生及び教職員がすべて尊重されるよう、本学では様々な取り組みを進めてきました。その中で2017年3月に策定されたのが、「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」です。

この大学に入学したあなたは、他の誰でもない「あなた」です。どんな人も他の人との「違い」を持っていますが、それは力になることも時にハードルになることもあるでしょう。そこで、もし困難に直面していたら助けとなり、あなたならではの能力が存分に発揮されるよう、CARIOに新しく「CARIO-NEXT」を設けました。その第1弾が、ガイドラインに対応しLGBT等当事者を主な対象とした「Lワークシート」です。

これは、使う人をLGBT等に限定したワークシートではありません。大きな「違い」を持った人に向けたツールだからこそ、そうでない人にも大きな役割を果たしてくれるはずです。



①

Career Portfolio Worksheet L-11

困っていること整理シート　記入日　年　月　日

このシートは上から順番に書き、必要に応じて複数枚作成します。チェックは複数可で、必要ない事項は記入しません。

(1)この困りごとはどれに関係する？（複数チェック）	(a)	□①性的指向（どういう性を愛するか）　□②性自認（自分はどういう性か） □③社会的な性の表現（服装など）　□④恋愛指向（どういう性に心ときめくか）
	(b)	□①身体的要因　□②性格的要因　□③精神的要因（メンタルなど）
	(c)	□①自分自身に対してで　□②誰か相手との関係で　□③集団や社会との関係で
	(d)	□①自分の気持ちを伝えたいのにうまく伝えられていない □②自分がわからない／整理できない □③適切でない行動をしてしまう　□④行動自体が取れない □⑤自分がどうすればよいかわからない
	(e)	□①相手から意図的に困ったことをされる □②相手は意図していないようだが私には困ることをされる □③相手は善意のつもりで私には困ることをされる □④相手の意図や心がわからない □⑤組織や集団の制度や構造の上で、私が困ることが起きている
	(f)	□①ストレスを感じる　□②恐怖を感じる　□③危険を感じる □④漠然と心配がある　□⑤違和感やモヤモヤしたものを感じる
(2)困っていることの内容は？（キーワードで可）		
(3)いつから？		□①ここ１ヶ月以内　□②ここ半年以内　□③ここ１年以内 □④入学以降（　　年入学）　□⑤高校生以降　□⑥中学生以降　□⑦ずっと □⑧わからない　□⑨その他（　　）
(4)いつまでに解決したい？		□①いま　□②できるだけ早く　□③特には決めないが必要な時に □④一定の時間が経ってから（どんな時？→　　） □⑤その他（　　）
(5)どこまで解決したい？		□①完全に問題が解決するまで　□②問題が概ね解決するまで □③半分程度の解決でもよい　□④多少なりとも解決されればよい □⑤解決に向かえば／問題提起できればよい　□⑥別に解決されなくてもよい □⑦解決する意図は持てない　□⑧よくわからない □⑨その他（　　）
(6)これが関係する人は？		□①友人　□②知人　□③クラスメイトや研究室メンバー　□④家族 □⑤同僚　□⑥指導・担当する学生　□⑦特にいない　□⑧伝えたくはない □⑨その他（　　）
(7)補足、メモ		

© University of Tsukuba All Rights Reserved.

「アライ」とは、英語で「同盟、支援」を意味するallyが語源です。私たちは、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）だけでなく、いわゆるストレートを含む多様なセクシュアリティの存在を認識し、共にいること／在ることを表明する人を、当事者・非当事者を問わず指す言葉として使います。同時にアライは、私たち全てが一人ひとりオリジナルなセクシュアリティを有するかけがえのない存在であることを尊重します。

筑波大学
University of Tsukuba

全ての人を包み込む寛容な光を、
偏見が消える、その日まで

制作：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
E-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
協力：NPO法人Ubdobe

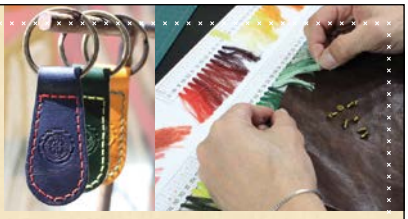
アライシンボルマークが持つ3つの要素

このマークには「太陽」、「波紋」、「紫陽花」の3つのシンボルが描かれています。それぞれに込められた意味を融合しアライシンボルマークが完成しました。

太陽　太陽は全ての生命と色の源であり、あらゆる人々を照らし、世界に彩りを与えます。このマークに描かれた太陽も全ての人々を平等に照らし、多様な輝きを生む光を放ちます。

波紋　水面に小石を投げると綺麗な波紋がゆるやかに広がり、消えていくように、小さな一歩でもセクシュアリティへの偏見を少しずつ消していき、いつしかマイノリティが特別な存在ではなくなるイメージを表現しています

紫陽花　白く潔白な美しさを持った白い紫陽花の花言葉は「寛容」を意味します。ありのままの多様なセクシュアリティについて、自分に対しても他者に対しても寛容であることを表します。



アライシンボル制作者について

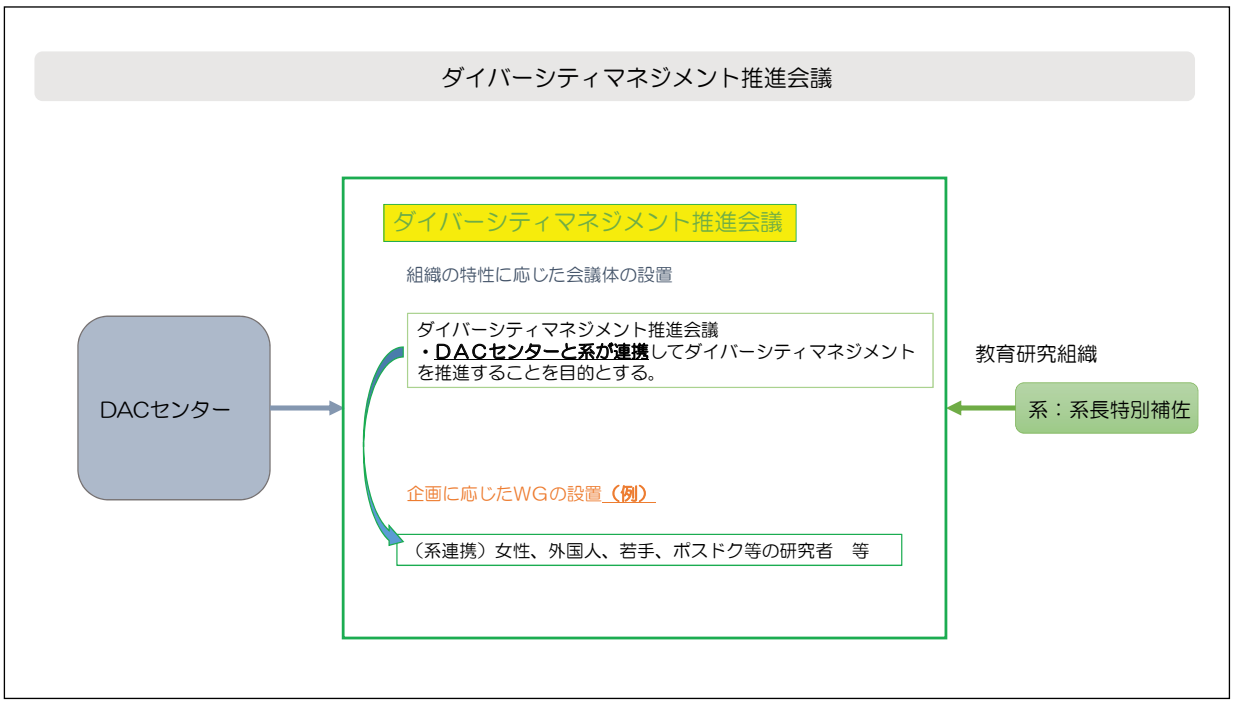
このアライシンボルは、筑波大学と学生の協働によって、「アライ」に対する理解や普及を広げるために制作されました。

※アライシンボルをつけていることで、セクシュアル・マイノリティ当事者であるということを表しているわけではありません。

8. 他機関・他部局との連携

①ダイバーシティ・マネジメント推進会議

ダイバーシティ・マネジメント推進会議とは、学内の教育研究組織とDACセンターが連携してダイバーシティ・マネジメントを推進することを目的に設置されました。教育研究組織の各系より、系長等特別補佐が構成員となり、各系及び大学全体としてダイバーシティ推進を進めています。



②全国ダイバーシティネットワーク

全国ダイバーシティネットワーク（OPENeD）とは、男女共同参画社会や多様な個性・能力が尊重されるインクルーシブな社会の実現のために、国立大学法人大阪大学が幹事機関となり、国立大学法人東京農業大学及び協働機関である日本IBMが中心となり、文部科学省と連携し、大学や研究機関、企業等における女性研究者の育成や研究環境・研究力の向上を目指す諸機関をつなぎ、国内外の取組動向や参考事例（グッドプラクティス）を収集・公開し、全国的な普及・展開を図ります。

全国８つの地域ブロックに分かれて活動をしており、本学は、関東・甲信越ブロック（東京地区を除く）に属しています。新潟大学と千葉大学と共に、とりまとめ幹事大学のひとつとして活動をしております。

2019年度には、13の機関が、関東・甲信越ブロックに参画しており、国立大学のみならず研究機関等業種や規模にかかわらず、より多くの関東・甲信越の機関が全国ネットワークを介して、女性研究者を取り巻く研究環境の整備や、研究力向上に向けた取組等の全国の情報にアクセスできることを目指しております。また、女性研究者支援に限らず、多様な属性を有する個人の誰もが個性と能力を発揮できる研究環境の実現に向けて、広くダイバーシティ推進に資する情報交換を共有できるよう、ブロック会議やセミナーを行っております。

今後も、幅広い分野の機関にも参画いただけるよう、引き続き活動していきます。

実施報告書

プログラム	全国ダイバーシティネットワーク組織関東・甲信越ブロック
課題名	アンコンシャスバイアスセミナー
実施日	2020年３月９日（月）13:30～16:30
場所	筑波大学　本部アネックス棟　会議室３
形式	一般公開・シンポジウム・(セミナー)・講演会・(ワークショップ)・その他（　　） 展示物：有（機器・設備　パネル　ビデオ上映　体験型　その他（　　））　無
対象者	一般　(研究者)　学生（大学院生）　(その他（事務職員・技術職員）)
来場者	人数：17名
周知方法	新聞　雑誌　学会誌　メディア取材　プレスリリース　(HP)　(メール発信) その他（　　）
実施者 関連サブテーマ	○筑波大学DACセンター　センター長　五十嵐浩也
内容 効果	講師として株式会社カレイディストの塚原月子氏をお招きし、全国ダイバーシティネットワーク組織関東・甲信越ブロック共催で「アンコンシャスバイアスセミナー」を開催しました。 本セミナーは、全国ダイバーシティネットワーク組織関東・甲信越ブロック参画大学の教職員を中心に、本テーマに興味のある方々を対象に、「アンコンシャスバイアス」の存在と影響に気付きを持つこと、自身の行動そのものを振り返りアンコンシャスバイアスの影響を克服すること、リーダーシップを発揮するために必要な「心の姿勢」についての３点を学ぶことを目的とし実施いたしました。 また、本セミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、会場に集まって行う対面型のセミナーを中止し、急遽WEBでの開催となりました。 セミナーでは、アンコンシャスバイアスは「誰にでも（自分にも）ある」ということを知り、向き合い、その影響を認識できるようになるために、参加者がそれぞれの無意識の偏見を感じたケースを共有しました。また、リーダーのアンコンシャスバイアスは、人や組織に大きな影響があることを理解し、アンコンシャスバイアスを克服するためのインクルーシブ・リーダーシップの言動を学びました。 受講者からのアンケートでは「自分ではそれほど偏見や思い込みをしていない様に思っていたが、気付かされた点が多く、気づくためのプロセスが学べた」や「自分では思い込みは強い方ではないと思っていたが、ワークをやってみると固定的な考え方が自分の中にもあるということを知れた」「仕事をしていく上で何が足りないのかが良くわかり、目標を改めて立て直す事ができました。ただ聞くだけでなく、考え、それを話し合いできた事でより意識が高まりました。」など前向きな意見をいただくことができました。

効果・問題点	WEB会議ツールのZOOMで実施し、個々が遠隔からの参加が出来るよう開催方法を変更しました。 完全WEBセミナーの開催は、初の試みとなりましたが新たな挑戦の時期と考え開催することにいたしました。不備の無いような準備や音声などの事前チェックをどう行うかなど課題はありますが、今後もセミナーの内容と状況を加味し、WEBセミナーの可能性を探っていきたいと思っております。

2020年
3月9日（月）

13：30
～
16：30

参加費
無料

アンコンシャスバイアスセミナー

「アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」の存在と影響に気付きを持ち、自分の行動そのものを振り返りながら、アンコンシャスバイアスの影響を克服し、リーダーシップを発揮するために必要な「心の姿勢」について学べるセミナーです。

会場

希望の会場をお選びください。【先着順】

① 筑波大学　筑波キャンパス　本部アネックス棟　会議室
（メイン会場：20名）

② 筑波大学　東京キャンパス　118教室
（遠隔（Zoom）参加：10名）

③ 新潟大学　五十嵐キャンパス　総合教育研究棟D棟1階大会議室
（遠隔（Zoom）参加：10名）

対象

大学の教員及び職員（全国ダイバーシティネットワーク参画大学）、本テーマに関心のある方

申込

DACセンター　ダイバーシティHPよりお申込みください。
https://diversity.tsukuba.ac.jp/?p=20282
締め切り：2月21日（金）

QRコード

【プログラム】

1．ダイバーシティ＆インクルージョンの組織的メリットの理解
2．アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）を知る
3．アンコンシャスバイアスと向き合う
4．アンコンシャスバイアスの影響を知る
5．アンコンシャスバイアスの克服とインクルーシブ・リーダーシップの資質を考える

【問合せ】

筑波大学DACセンター
TEL:029-853-8504
Email:diversity@un.tsukuba.ac.jp

【共催】

全国ダイバーシティネットワーク
組織関東・甲信越ブロック

筑波大学とつくば女性研究者支援協議会による女子中高生のリケジョサイエンス合宿の取組

筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

合宿の目的

筑波大学や近隣の研究所、企業で働く女性研究者との交流や実験体験を通じて、

① 女子中高生に理系の魅力を伝え、理系への進路選択の悩みや不安を減らす

② 女子中高生が身近に「リケジョの未来」をイメージできることを目的とする

❖ 平成25年度より７年間継続的に実施*

合宿の概要

- ２泊３日の合宿形式によるプログラム
- 体験型メニューを用意することにより、多彩な理系の魅力を直に伝える（表1）
- 大学生スタッフとの「タテのつながり」を作り、身近なロールモデルを提示する
- 女子中高生同士の「ヨコのつながり」を促し、理系を目指す仲間を作る

1日目	
午後	**基調講演/パネルディスカッション**
	山海嘉之教授（筑波大学）による基調講演と、世界で活躍する３名の研究者・技術者によるパネルディスカッション
	ラウンドテーブルカフェ（女子中高生）
	22名の女性研究者とグループ単位での座談会による交流
	研究機関/大学と学生のブース展示
	10の研究機関や大学によるブース展示を通して理系の進路について個別相談を実施。また、高校生による研究発表のブースも5つ設置し、現役の研究者との意見交換を実施
夜	**大学生企画の交流会**
	宿泊施設で大学生が企画したゲームを通して参加者と大学生とが交流

2日目	
午前	**サイエンス実験体験（1）**
	多彩な理系分野（数理系、理工系、医学系、情報系等）の12研究室が企画したサイエンス実験を体験
午後	**サイエンス実験体験（2）**
	午前と異なる研究室にて実験を体験
夜	**大学生企画のグループワーク**
	2日間を通じて得たことをまとめるため、大学生とともにグループワークを実施
3日目	
午前	**グループワーク発表と大学生との交流会**
	グループワークの成果を一人ひとりが個人の今後へのメッセージとして発表。記念写真の撮影会を実施し、修了証を授与

合宿の様子

➢ 基調講演／パネルディスカッション／ラウンドテーブルカフェ／ブース展示

➢ サイエンス実験体験

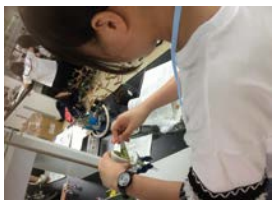
運動栄養学研究室

無機系エネルギー・環境材料研究室

ゲノム情報生物学研究室

作物生産システム学研究室

認知システムデザイン研究室



食品機能化学研究室

光合成・光治療研究室

生産システム工学研究室

➢ 施設見学

➢ グループワークと発表

筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

〒305-8577　茨城県つくば市天王台1-1-1　筑波大学スチューデントプラザ2階　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp

URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505

④イベントポスター

大学院生・ポスドクのための
キャリアデザインイベント
「産業界とその研究職」について知る
研究型インターンシップ
報告会＆企業説明会
5/22(水)
12:15-16:30
筑波大学 大学会館
国際会議室（3F）｜特別会議室
プログラム 11:30～受付開始
12:15 主催者挨拶／インターンシップ報告会
12:45 参加企業プレゼンテーション（5分×10社程度）
13:45
14:00 学生と企業の交流会
30分×3回
＋
フリータイム（45分）
15:40
16:30
国際会議室 特別会議室
各分野のリーディング企業の研究者と直接話せる
研究型インターンシップに参加するチャンス
企業の研究者と人脈を広げるチャンス
会員企業
産学協働イノベーション人材育成協議会会員企業・ダイバーシティ推進企業 から 10 社掲載
島津製作所／清水建設／住友化学／住友電気工業／住友電装／住友理工／住友林業／ダイキン工業／大日本印刷／竹中工務店／DMG森精機／電力中央研究所／東レ／巴川製紙所／日本触媒／日本ゼオン／日本総合研究所／日本電信電話／パナソニック／日立化成／富士フイルム／堀場製作所／マツダ／三菱重工業／三菱電機／村田製作所／ヤフー／横浜ゴム／楽天／リコー／ロート製薬／日本IBM／産業技術総合研究所
筑波大学の理系大学院生ポスドク（博士人材）向け
※文系の方はお問い合わせください。
※参加企業及び研究概要は当日会場にて掲示します。
産学協働イノベーション人材育成協議会の研究型インターンシップに挑戦しませんか？
問い合わせ先
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（担当：三浦）
career@un.tsukuba.ac.jp
参加申し込み
4/10(水)～5/20(月)
筑波大学就職課ホームページ
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
※HPから参加登録できない場合はメールでも申し込み可能です。
主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

企業等訪問
バスツアー
～企業や研究内容のリアルを知るチャンス！～
2019年6月14日(金)
先着20名限定
参加無料
社員の方や研究者の方との交流会
時間 10:00-16:15（集合9:15）
集合場所 筑波大学本部棟及び見学施設
対象 理系大学院生・学群4年生（大学院進学予定限定）
※文系学生はお問い合わせください。
訪問先 大日本印刷株式会社 つくば総合開発センター
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
※産学協働イノベーション人材育成協議会及びつくば女性研究者支援協議会に登録しています。
昼食懇談会あります
9:15 筑波大学本部棟
午前 大日本印刷 つくば総合開発センター
午後 農研機構
16:15 筑波大学本部棟
募集期間 5/27(月)-6/14(火)
6/7(金)12:00まで延長！
※定員になり次第、終了となります。
筑波大学就職課ホームページ
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career
お問い合わせ
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（担当：三浦・大園）
TEL：029-853-5706 E-mail：career@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学第２回全学FD研修会 主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター 協力：University Diversity Alliance
2019年 6月 17日（月）15時00分～17時15分
筑波大学 東京キャンパス文京校舎（丸ノ内線茗荷谷駅徒歩5分）120講義室 ※参加費無料
遠隔中継：筑波大学 筑波キャンパス スチューデントプラザ2F 就職課会議室
ダイバーシティセミナーI
LGBT等の学生サポートに関する日米対話
～学生の安全な居場所とは～
講演「米国のLGBTQ自認の学生サポートに関する枠組み（仮）」
グレン・マグパンタイ氏 全米アジア・太平洋諸島系クィア連盟(NQAPIA)事務局長
所属団体会員を対象とするリーダーシップ研修、移民の権利に関するアドボカシー、LGBT当事者の可視化、「家族の受容」キャンペーンなどのプログラムを監督する。NQAPIA事務局に就任するまで、公民権弁護士として活躍。ブルックリン法科大学院とハンターカレッジ法科大学院で客員教授を兼任。ゲイ当事者としてのアクティビズム歴は25年近い。既婚。
講演「日本のLGBT等の学生サポートに関する枠組み（仮）」
河野禎之 筑波大学人間系（障害科学域）／DACセンター助教
筑波大学が2016年に設置したLGBT等に関する相談窓口で相談業務を担当するとともに、2017年に公表した「LGBT等に関する基本理念と対応ガイドライン」の策定に関わる等、筑波大学のLGBT等の学生サポート全般を受け持つ。臨床心理士。
パネルディスカッション グレン・マグパンタイ氏 モデレーター：河野禎之
マーシャ・アイズミ氏
トランスジェンダーの息子の母親。日系三世。母親としての罪悪感、悲しみ、日系人の文化に特有な「恥」を克服し、トランスジェンダー受容のアジア系アドボカシー活動のさきがけとなる。PFLAG（親の会）全米本部理事。著書「Two Spirits, One Heart」（ふたつの魂、一つの心）は、レズビアンとしてカミングアウトした娘がのちにトランスジェンダー男性としてカミングアウトするプロセスを見守る母親としての体験記である。
越智小夏 筑波大学人文・文化学群比較文化学類4年
筑波大学の学新聞の記者として、筑波大学のほか国内外でLGBT等に関する取材を行ってきた。2018年には筑波大学海外派遣支援事業「海外武者修行支援プログラム」にてオランダに飛び、同国の先進的な取り組みを取材した。
矢部 文 氏（通訳）
レズビアンで既婚の娘の母親。PFLAG NYCのコミュニティーアウトリーチを担当。日本人を含むアジア系LGBTQ当事者とその家族を可視化することで、彼らの存在が当たり前と受け止められるような社会づくりを目指して活動している。アジア系（API と省略）LGBTQ当事者の団体であるNQAPIAとのコラボレーションで、「家族の受容」キャンペーンに参加し、LGBTQ当事者と保護者向けのワークショップでゲストスピーカーを務める。福島県出身。
申 込： 下記のダイバーシティのHPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締 切： 6月 10日（月）※要事前予約
対象者： 筑波大学教職員および学生、関心のある一般の方（学外者の参加も歓迎します）
問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ）
TEL: 029-853-8504 FAX: 029-853-8505 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp または「筑波大学 ダイバーシティ」で検索
申し込みフォームへ！

主催：筑波大学・日本IBM・産業技術総合研究所
TIDE
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（事務型）
2019年度第1回
女性研究者・技術者
異業種交流会
～ダイバーシティ・リーダー・チャレンジ～
発表者募集！
一般参加者（発表なし）も同時募集！
エントリー締切 ~~6月28日（金）~~
締切延長！ 7月5日（金）
女性研究者・技術者同士で気軽に語り合い、発表する異業種交流会です。みなさまの素晴らしい活動を共有する機会となりますので、ご参加をお待ちしております。
参加無料
若手大歓迎！
日時 2019年 7月18日 木曜 14:00～16:00
場所 筑波大学 大学会館 特別会議室
内容 発表内容：以下の観点を踏まえて、5分間のプレゼン
/研究の実績や取り組んでいる研究
/ダイバーシティに関する取り組み。その効果と成果
/その他、特記事項等（教育活動や社会貢献など）
対象：筑波大学、日本IBM、産業技術総合研究所及びつくば女性研究者支援協議会会員・連携機関に在籍している女性研究者・技術者
※交流会後、参加者のネットワーク構築の場として情報交換会(参加費1,000円)を設けます。
問い合わせ 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504 E-mail: diversity@un.tsukubai.ac.jp
申し込み 下記、筑波大学ダイバーシティ担当のHPより
URL：https://diversity.tsukuba.ac.jp/?p=19260
✓ 聴講のみの一般参加（発表なし）も歓迎です。資料準備のため【7月12日（金）まで】に上記HPよりお申込みください（当日参加も歓迎）
TIDE Women's Award
「TIDE Woman's Award」は、研究のみならず教育や地域貢献、機関内外のダイバーシティ推進に尽力している女性研究者・技術者を表彰します。異業種交流会に参加いただいた発表者は、本アワードにノミネートされ、さらに、当日優秀な女性研究者・技術者に選ばれた方へ、アワードが贈られます。受賞者は、2019年10月4日（金）10:00～12:30につくば国際会議場で行われる、TIDEシンポジウム（筑波会議内）にて、授賞式にご参加いただき、表彰いたします。

茨城県　つくば市　筑波大学 University of Tsukuba　令和元年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム

リケジョサイエンス合宿と中高生理工系進学応援シンポジウムに参加しませんか？

女子中高生が多様な理系分野の魅力を知り、体験できるプログラムとして「リケジョサイエンス合宿」と「中高生理工系進学応援シンポジウム」を開催します。初日のシンポジウムは男女問わず合宿に参加しない方も含めて広く参加者を募ります。理系に興味がある方、進路を決めかねている方、ご参加お待ちしております。

リケジョサイエンス合宿 女子のみ

2泊3日「サイエンス」環境にたっぷりと浸りながら、仲間や先輩たちとさまざまな企画に参加できるプログラムです！

- 日時　令和元年 7月31日(水)11:30～8月2日(金)12:30
- 場所　筑波大学　メイン会場：筑波大学 体育芸術エリア5C棟
- 募集人数　100名　応募者多数の場合抽選で決定　事前登録制
- 宿泊先　筑波山ホテル青木屋
- 宿泊費　16,000円　＊現合費・朝夕食費込　＊参加確定後、ホテルへ直接支払い頂きます　＊筑波大学までの交通費は自己負担となります　＊同伴者 20 名程度も参加できます

1日目 7/31　中高生理工系進学応援シンポジウム

募集人数 100名　参加無料　当日参加可　※託児ルームあり（事前申込制）

女子・男子 保護者

シンポジウムは男女問わず合宿に参加しない方も参加できます！

基調講演

山海 嘉之（筑波大学 システム情報系教授・サイバニクス研究センター長 CYBERDYNE株式会社代表取締役社長 CEO）

プロフィール
筑波大学教授、CYBERDYNE社CEO（筑波大学発ベンチャーとして起業し株式上場達成）。新領域「サイバニクス：人・ロボット・情報系の融合複合」を創生。脳神経・筋系の疾患を治療する革新的サイバニックシステム（HALシステム）の開発で知られる。サイバニクスを駆使することで、社会課題解決のための革新的な創出、新産業創出、発災型人材育成を同時展開しながら、好循環のイノベーションを推進。

パネルディスカッション

ロールモデルとなる世界で活躍する研究者の経歴や仕事の魅力についてお話しします。

山岸 裕美（ゲヤビッセ株式会社 主宰研究員兼研究センター所長）
種岡 遼平（清華技術総研所長 新産ヴィクロシステム研究センター ヴィクロシステム研究チーム）
竹田 千恵（日本IBM株式会社 IBMシステム製造本部 ソリューション事業部）

ラウンドテーブルカフェ 女子のみ 事前登録制

グループに分かれ、女性研究者を囲んで自由に交流できます。

保護者セミナー 事前申込または当日参加OK

現役大学教員と企業、研究所職員がリケジョの保護者の悩みにお答えします！

進行 山口 香（筑波大学 体育系教授 DACセンター副センター長 日本オリンピック委員会理事）

保護者のための！ 相談先輩 小林正美（筑波大学 数理物質系 准教授）

＊パネルディスカッション登壇者も参加します！

企業や研究機関、大学による展示ブース

企業や研究機関、大学の研究開発や研究職のキャリアに関する展示ブースです。誰でも自由に参加し、交流することができます。

2日目 8/1　▶サイエンス実験体験

筑波大学の理系分野の研究室にて科学実験を体験します。午前と午後の２回体験できます。研究室の詳細は裏面をご参照ください。

1泊2日日程 宿泊交流（グループワーク、学生発表会）

3日目 8/2

▶研究機関の見学・体験 要事前申込

＊4つの研究機関のうち1つを選択し見学します。

❶宇宙航空開発機構（JAXA）
日本の宇宙開発の拠点 筑波宇宙センターをガイド付きで見学。国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」の運用管制室と宇宙飛行士の運転や幕張計測を行う宇宙用付士重視機もめぐります。※見学希望者は、写真付身分証明書が必須となります。

❷高エネルギー加速器研究機構
【光の工場】フォトンファクトリー（放射光科学研究施設）さまざまな物質や生命の姿を、原子・分子のレベルで見るための光「放射光」を作り出す施設の見学です。

❸森林総合研究所　生物多様性別棟
鳥類、昆虫、樹木の葉と木材の研究用標本が所属されている博物館のパックヤードのような施設です。トキなどの貴重な生物の標本がたくさんあります。

❹筑波大学 グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラム
学生たちが現場力、整せ力、分野横断力を磨く場所 エンパワースタジオを見学。世界最大級のVRシステム（Large Space）を体験していただけます。

▶グループワーク発表　グループワークの発表会を行います。

主催 茨城県・つくば市・筑波大学
後援 つくば女性研究者支援協議会

申込締め切り：令和元年7月7日（日）　申込はWEBで！▶　詳細は裏面へ！

2019年度 自由科目（特設）【8320404】

科目名「ワークライフ学－男女共同参画とダイバーシティ－」

ダイバーシティ × ワーク・ライフ・バランス

さまざまな可能性（多様性）の中で働くこと、生きることを知ろう！

大学院生も参加歓迎！

ワークショップのみ参加も可！

＊要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、大学院生及び2日目のみの参加の場合は単位は出ません。

9月19日（木）10時～17時 @3B213

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティを理解するための講義とグループワーク

9月26日（木）13時～17時 @3B213

（ワークショップ）多様な働き方とキャリア形成に関する話題提供（テーマと講師は下記参照）とグループワーク

話題提供
「ワークライフミックス～あなたのライフデザインは？～」
光畑 由佳 氏 有限会社モーハウス／特定非営利活動法人子連れスタイル推進協会

10月 4日（金）10時～12時30分 @つくば国際会議場

「筑波会議」で開催されるダイバーシティ関連セッションの聴講　※他授業の履修のために参加できない場合は申し出ること

履修登録期間：~~9月12日(木)まで~~ 7月31日(水)まで　担当教員：河野禎之（人間系/DACセンター）

履修の問い合わせ：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター　diversity@un.tsukuba.ac.jp

★ 大学院生の受講希望や2日目のみの参加希望はDACセンターHPより事前申し込みをお願いします。
★ 単位履修のためには3日間の出席を前提としていますが、10月4日が他授業のため参加できない場合は申し出てください。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

2019年度 大学院共通科目【01ZZ520】

科目名「ダイバーシティとSOGI/LGBT+」

ダイバーシティ × セクシュアル・マイノリティ

さまざまな可能性（多様性）の中で働くこと、生きることを知ろう！

学群生も参加歓迎！

講演部分のみ参加も可！

＊要事前申し込み。詳しくは下記参照。なお、学群生及び講演のみの参加の場合は単位は出ません。

9月20日（金）10時～17時 @大学会館マルチメディアルーム

ワークライフバランスと男女共同参画、ダイバーシティ、セクシュアル・マイノリティを理解するための講義とグループワーク

9月27日（金）13時～17時 @大学会館国際会議室・マルチメディアルーム

（講演）セクシュアル・マイノリティに関する講演（テーマと講師は下記参照）とグループワーク

講演（13時～14時30分）
「さまざまな生き方とキャリアが認められる社会とは（仮）」
杉山 文野 氏 株式会社ニューキャンバス代表/トランスジェンダー活動家

10月 4日（金）10時～12時30分 @つくば国際会議場

「筑波会議」で開催されるダイバーシティ関連セッションの聴講　※他授業の履修のために参加できない場合は申し出ること

履修登録期間：９月13日(金)まで　担当教員：河野禎之（人間系/DACセンター）

履修の問い合わせ：大学院共通科目事務室　ggec@un.tsukuba.ac.jp

★ 学群生の受講希望や講演部分のみの参加希望はDACセンターHPより事前申し込みをお願いします。
★ 大学院共通科目の単位履修のためには3日間の出席を前提としていますが、10月4日が他授業のため参加できない場合は申し出てください。

「筑波大学　ダイバーシティ」で検索　または　http://diversity.tsukuba.ac.jp/

大学院生・若手博士人材と企業との交流会

参加者募集！

2019年9月25日(水)10:00～15:40
オークラフロンティアホテルつくば

業界研究や自己分析を通して、自分の将来を真剣に考えるきっかけに！

研究者や人事担当者と直接話ができる！　インターンシップの情報収集に！　ポスター作成を通して自己理解を深められる　ポスター発表により自己PRできるチャンス

出展企業13社が決定しました!!

- 野村ホールディングス
- 三菱電機株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 京セラ株式会社
- パナソニック株式会社
- アステラス製薬株式会社
- 第一三共株式会社
- 株式会社日本入試センター
- CYBERDYNE株式会社
- 株式会社リコー
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所
- サンディスク株式会社
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

スケジュール

ポスター作成が初めてでも大丈夫！
DACセンターが万全の体制でサポートします！
（内容の個別相談・印刷）

10:00　受付
10:30　挨拶

第１部・第２部対象者　大学院（修士）　大学院（後期）　ポスドク

10:40-10:50　企業挨拶
11:00-13:00　第１部　学生によるポスター発表
13:00-14:10　第２部　企業との交流会（軽食付き）

第３部対象者　大学院（後期）　ポスドク

14:30-15:40　第３部　大学院博士後期対象
採用のための合同企業説明会

申込締切　第１部　9/2（月）　申込締切
第２・３部　9/17（火）申込締切

https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/
筑波大学就職課ホームページ
「ガイダンス・模擬試験申請登録」から参加登録！

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL 029-853-5706　E-mail career@un.tsukuba.ac.jp　URL https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/

筑波大学第８回全学FD研修会　主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア（DAC）センター

2019年 9月 27日（金）13時00分～14時30分
筑波大学 大学会館 国際会議室　※参加費無料

ダイバーシティと SOGI/LGBT+

SOGIとは Sexual Orientation（性的指向）とGender Identity（性自認）の頭文字をとり、性的指向・性自認の多様性を示すために使用される呼称です

講演「さまざまな生き方とキャリアが認められる社会とは（仮）」

杉山 文野 氏 トランスジェンダー活動家／株式会社ニューキャンバス

1981年東京都新宿区生まれ。フェンシング元女子日本代表。早稲田大学大学院にてセクシュアリティを中心に研究した後、その研究内容と性同一性障害と診断を受けた自身の体験を織り交ぜた『ダブルハッピネス』を講談社より出版。韓国語翻訳やコミック化されるなど話題を呼んだ。卒業後、2年間のバックパッカー生活で世界約50カ国+南極を巡り、現地で様々な社会問題と向き合う。帰国後、一般企業に3年ほど勤め、現在は自ら飲食店を経営するかたわら、日本最大のプライドパレードである特定非営利活動法人東京レインボープライド共同代表理事、セクシュアル・マイノリティの子供たちをサポートするNPO法人ハートをつなごう学校代表、各地での講演会やNHKの番組でMCを務めるなど活動は多岐にわたる。日本初となる渋谷区・同性パートナーシップ条例制定に関わり、現在は渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員も務める。

申　込：　下記のDACセンターのHPにある申し込みフォーム、QRコードにて
締　切：　9月 24日（火）※要事前予約
対象者：　筑波大学教職員及び学生、関心のある一般の方（学外者の参加も歓迎します）
＊ 大学院生は大学院共通科目として受講することも可能です。詳細は大学院共通科目HPを確認してください。

会場までのアクセス例
（詳細は大学HPにてご確認ください）
つくば駅（つくばセンター）より、バス乗り場６番から「筑波大学中央行き」か「筑波大学循環バス（左回り・右回り）」に乗り「大学会館前」で下車（10分程度）。バス停から東へ進み、大学会館に入ってください。

大学会館
大学会館前
大学会館前
筑波大学循環バス
ローソン
ファミリーマート
ローソン
ファミリーマート
ローソン
ファミリーマート

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））」
全国ダイバーシティネットワーク組織　関東・甲信越ブロック

ダイバーシティセミナーⅤ

研究領域における Gender Equality とダイバーシティ推進の壁

意思決定プロセスへの女性の参画と推進体制の持続可能性

本セミナーでは、大学や研究機関等に共通して「壁」として残る、女性の上位層育成を含む「意思決定プロセスへの女性の参画」と、補助事業により整備された組織の維持や取組の継続を含む「推進体制の持続可能性」に焦点を当てます。そして、日本各地の大学や研究機関の取組支援に長年関わられてきた科学技術振興機構のプログラム・オフィサーを講師として招き、参加者が研究領域における男女共同参画とダイバーシティ推進の「壁」に関する現状を認識し、その突破に向けた示唆を得ることを目的とします。

2019年11月28日 木　14:00-16:00
終了後、情報交換会を予定

AP秋葉原 4階「I」「J」（東京都台東区秋葉原1-1 秋葉原ビジネスセンター）
※「秋葉原駅」中央改札口より徒歩約5分

講師 ■ 山村 康子 氏
科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部 プログラム主管（プログラムオフィサー）

対象　本テーマにご関心のある方はどなたでもご参加いただけます

定員　70名（参加費無料）

申込み　事前予約制。右記QRコードからお申し込みください。
もしくは下記ダイバーシティ担当ホームページからご登録ください。
11月25日（月）締切

お問い合わせ
国立大学法人 筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（ダイバーシティ担当）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1　TEL:029-853-8504　FAX:029-853-8505
URL:http://diversity.tsukuba.ac.jp/　E-mail:diversity@un.tsukuba.ac.jp

主催　筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

Diversity Awareness Week 2019

OUT IN JAPAN @筑波大学

2019年 12月 16日（月）～ 20日（金）
筑波大学中央図書館 2F 入口すぐ　常設展示

- 認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催
- プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーによる写真のうち、30枚の当事者の写真とメッセージを展示
- 多様なセクシュアリティの当事者の「姿」と「思い」に触れることのできる機会です

問い合わせ先
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
TEL: 029-853-8504　FAX: 029-853-8505　E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
URL: http://diversity.tsukuba.ac.jp　または「筑波大学　ダイバーシティ」で検索

詳細はこちらから

主催：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

good aging yells

2020年 3月9日（月）　13：30 ～ 16：30　参加費 無料

アンコンシャスバイアスセミナー

「アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」の存在と影響に気付きを持ち、自分の行動そのものを振り返りながら、アンコンシャスバイアスの影響を克服し、リーダーシップを発揮するために必要な「心の姿勢」について学べるセミナーです。

会場　希望の会場をお選びください。【先着順】
① 筑波大学　筑波キャンパス　本部アネックス棟　会議室（メイン会場：20名）
② 筑波大学　東京キャンパス　118教室（遠隔（Zoom）参加：10名）
③ 新潟大学　五十嵐キャンパス　総合教育研究棟D棟1階大会議室（遠隔（Zoom）参加：10名）

対象　大学の教員及び職員（全国ダイバーシティネットワーク参画大学）、本テーマに関心のある方

申込　DACセンター　ダイバーシティHPよりお申込みください。
https://diversity.tsukuba.ac.jp/?p=20282
締め切り：2月21日（金）
QRコード

【プログラム】

1. ダイバーシティ＆インクルージョンの組織的メリットの理解
2. アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）を知る
3. アンコンシャスバイアスと向き合う
4. アンコンシャスバイアスの影響を知る
5. アンコンシャスバイアスの克服とインクルーシブ・リーダーシップの資質を考える

【問合せ】
筑波大学DACセンター
TEL:029-853-8504
Email:diversity@un.tsukuba.ac.jp

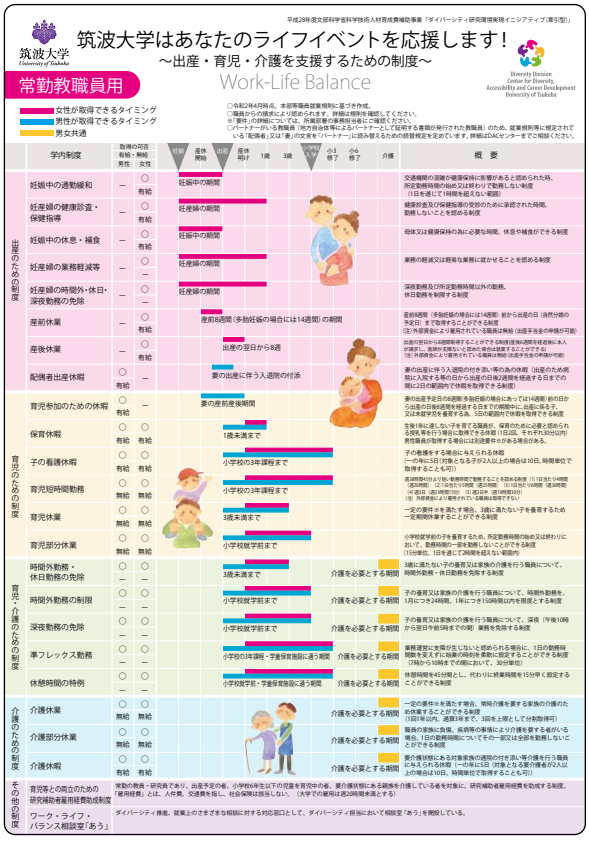
【共催】
全国ダイバーシティネットワーク組織関東・甲信越ブロック

Ⅲ

参考資料

参考資料

①ワークライフ支援ガイド（下敷き形）



平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

筑波大学 University of Tsukuba

筑波大学はあなたのライフイベントを応援します！
～出産・育児・介護を支援するための制度～
Work-Life Balance

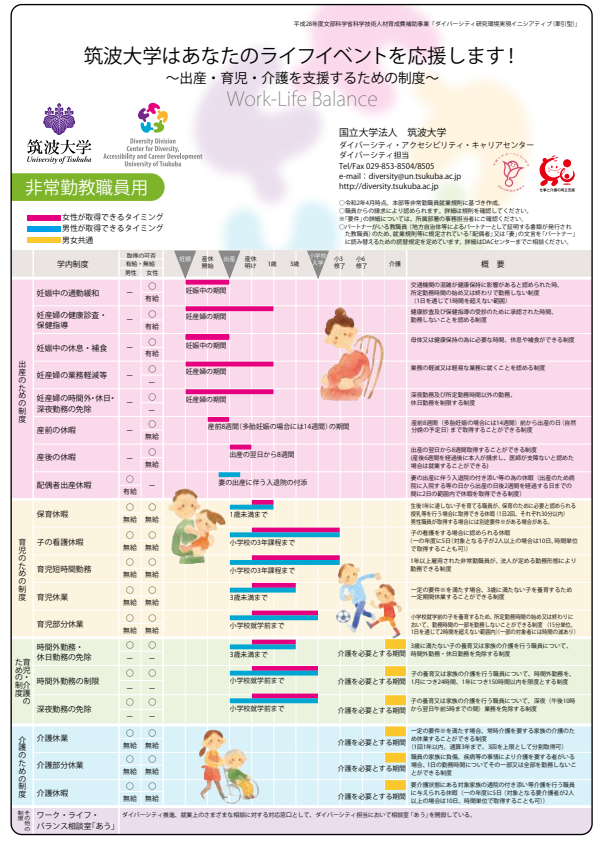
常勤教職員用

Diversity Division Center for Diversity, Accessibility and Career Development University of Tsukuba

女性が取得できるタイミング
男性が取得できるタイミング
男女共通

○令和2年4月時点。本部等職員就業規則に基づき作成。
○職務からの緩衝により認められます。詳細は規則を確認してください。
※「要件」の詳細については、所属部署の事務担当者にご確認ください。
○パートナーからも施設長（地方自治体等による「パートナーとして同行する書類が発行された教職員」のため、就業規則等に規定されている「配偶者」又は「妻」の文言を「パートナー」に読み替えるための読替規定を定めています。詳細はDACセンターまでご相談ください。

	学内制度	取得の可否 有給・無給 男性	取得の可否 有給・無給 女性	概要
妊娠のための制度	妊娠中の通勤緩和	—	○ 有給	交通機関の混雑が健康保持に影響があると認められた時、所定勤務時間の始め又は終わりで勤務しない制度（1日を通じて1時間を超えない範囲）
	妊産婦の健康診査・保健指導	—	○ 有給	健康診査及び保健指導の受診のために承認された時間、勤務しないことを認める制度
	妊娠中の休息・補食	—	○ 有給	母体又は健康保持の為に必要な時間、休息や補食ができる制度
	妊産婦の業務軽減等	—	○ —	業務の軽減又は軽易な業務に就かせることを認める制度
	妊産婦の時間外・休日・深夜勤務の免除	—	○ —	深夜勤務及び所定勤務時間以外の勤務、休日勤務を制限する制度
	産前休業	—	○ 有給	産前8週間（多胎妊娠の場合には14週間）前から出産の日（自然分娩の予定日）まで取得することができる制度（注）外部資金により雇用されている職員は無給（出産手当金の申請が可能）
	産後休業	—	○ 有給	出産の翌日から8週間経過するまでの期間は原則就業禁止とされていますが、産後8週間を経過後に本人が請求し、医師が支障ないと認めた場合は就業することができる（注）外部資金により雇用されている職員は無給（出産手当金の申請が可能）
	配偶者出産休暇	○ 有給	—	妻の出産に伴う入通院の付き添い等の為の休暇（出産のため病院に入院する等の日から出産の日後2週間を経過する日までの期に2日の範囲内で休暇を取得できる制度）
育児のための制度	育児参加のための休暇	○ 有給	—	妻の出産予定日の前期間・多胎妊娠の場合にあっては14週間）前から出産の日後8週間を経過する日までの期間内に、出産に伴う、子以外の就学児を養育する為、5日の範囲内で休暇を取得できる制度
	保育休暇	○ 有給	○ 有給	生後1年に達しない子を育てる職員が、保育のために必要と認められる授乳等を行う場合に取得できる休暇（1日2回、それぞれ30分以内）男性職員が取得する場合には到達要件のある場合がある。
	子の看護休暇	○ 有給	○ 有給	子の看護を十分行う場合に認められる休暇（一の年度に5日（対象となる子が2人以上の場合は10日、時間単位で取得することも可）
	育児短時間勤務	○ 無給	○ 無給	連続勤務の妨げ等、勤務時間で勤務することを認める制度（1）1日当たり4時間（連続時間）（2）1日当たり6時間（連続時間）（3）1日当たり6時間（連続時間）（4）週3日（連続勤務日）（5）週2日（連続勤務日）（注）所属部署により勤務されている職員は取扱できない。
	育児休業	○ 無給	○ 無給	一定の要件※を満たす場合、3歳に達たない子を養育するため一定期間休業することができる制度
	育児部分休業	無給	無給	小学校就学前の子を養育するため、所定勤務時間の始め又は終わりにおいて、勤務時間の一部を勤しないことができる制度（15分単位、1日を通じて3時間を超えない範囲内）
育児・介護のための制度	時間外勤務・休日勤務の免除	○ —	○ —	3歳に達たない子の養育又は家族の介護を行う職員について、時間外勤務・休日勤務を免除する制度
	時間外勤務の制限	○ —	○ —	子の養育又は家族の介護を行う職員について、時間外勤務を、1月につき24時間、1年につき150時間以内を限度とする制度
	深夜勤務の免除	○ —	○ —	子の養育又は家族の介護を行う職員について、深夜（午後10時から翌日午前5時までの間）業務を免除する制度
	準フレックス勤務	○ —	○ —	業務運営に支障が生じないと認められる場合に、1日の勤務時間数を変えずに始業の時刻を柔軟に設定することができる制度（7時から9時までの間において、30分単位）
	休憩時間の特例	○ —	○ —	休憩時間を45分間とし、代わりに終業時間を15分早く設定することができる制度
介護のための制度	介護休業	○ 無給	○ 無給	一定の要件※を満たす場合、常時介護を要する家族の介護のため休業することができる制度（1回1年以内、通算3年まで、3回を上限として分割取得可）
	介護部分休業	○ 無給	○ 無給	職員の家族に負傷、疾病等の事情により介護を要する者がいる場合、1日の勤務時間についてその一部又は全部を勤務しないことができる制度
	介護休暇	○ 有給	○ 有給	要介護状態にある対象家族の通院の付き添い等の援を行う職員に与えられる休暇（一の年度に5日（対象となる要介護者が2人以上の場合は10日。時間単位で取得することも可）
その他の制度	育児等と両立のための研究補助者雇用経費助成制度	常勤の教員・研究員であり、出産予定の者、小学校6年生以下の児童を育児中の者。妻の産休期にある職務を介護しているまを対象に、研究補助者雇用経費を助成する制度。「雇用経費」とは、人件費、交通費を指し、社会保険は対象しない。（大学での雇用は通20時間未満とする）		
	ワーク・ライフ・バランス相談室「あう」	ダイバーシティ推進、就業上のさまざまな相談に対する対応窓口として、ダイバーシティ担当において相談室「あう」を開設している。		



平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

筑波大学 University of Tsukuba

筑波大学はあなたのライフイベントを応援します！
～出産・育児・介護を支援するための制度～
Work-Life Balance

Diversity Division Center for Diversity, Accessibility and Career Development University of Tsukuba

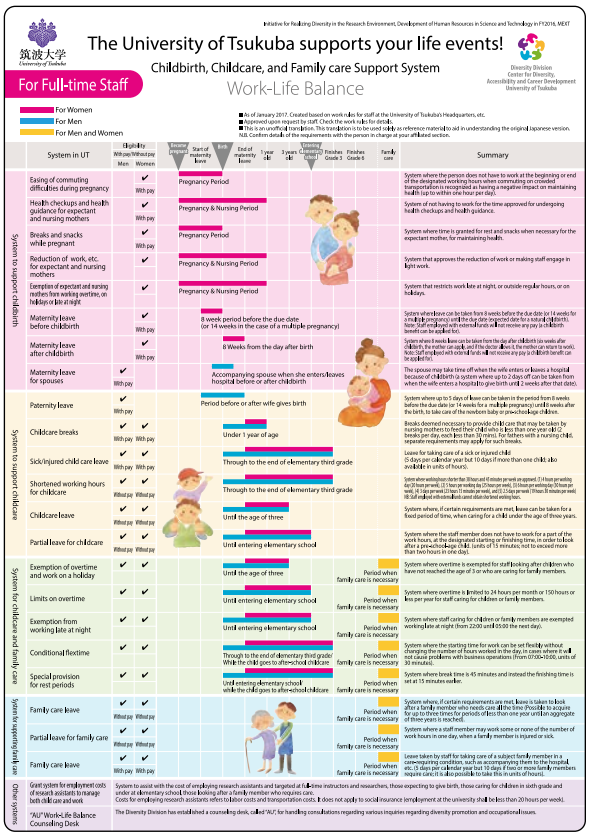
国立大学法人　筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
ダイバーシティ担当
Tel/Fax 029-853-8504/8505
e-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
http://diversity.tsukuba.ac.jp

非常勤教職員用

女性が取得できるタイミング
男性が取得できるタイミング
男女共通

○令和2年4月時点。本部等非常勤職員就業規則に基づき作成。
○職務からの緩衝により認められます。詳細は規則を確認してください。
※「要件」の詳細については、所属部署の事務担当者にご確認ください。
○パートナーからも施設長（地方自治体等による「パートナーとして同行する書類が発行された教職員」のため、就業規則等に規定されている「配偶者」又は「妻」の文言を「パートナー」に読み替えるための読替規定を定めています。詳細はDACセンターまでご相談ください。

	学内制度	取得の可否 有給・無給 男性	取得の可否 有給・無給 女性	概要
妊娠のための制度	妊娠中の通勤緩和	—	○ 有給	交通機関の混雑が健康保持に影響があると認められた時、所定勤務時間の始め又は終わりで勤務しない制度（1日を通じて1時間を超えない範囲）
	妊産婦の健康診査・保健指導	—	○ 有給	健康診査及び保健指導の受診のために承認された時間、勤務しないことを認める制度
	妊娠中の休息・補食	—	○ 有給	母体又は健康保持の為に必要な時間、休息や補食ができる制度
	妊産婦の業務軽減等	—	○ —	業務の軽減又は軽易な業務に就くことを認める制度
	妊産婦の時間外・休日・深夜勤務の免除	—	○ —	深夜勤務及び所定勤務時間以外の勤務、休日勤務を制限する制度
	産前の休暇	—	○ 無給	産前8週間（多胎妊娠の場合には14週間）前から出産の日（自然分娩の予定日）まで取得することができる制度
	産後の休暇	—	○ 無給	出産の翌日から8週間経過するまでの期間（産後8週間を経過後に本人が請求し、医師が支障ないと認めた場合は就業することができる）
	配偶者出産休暇	○ 有給	—	妻の出産に伴う入通院の付添
育児のための制度	保育休暇	○ 無給	○ 無給	生後1年に達しない子を育てる職員が、保育のために必要と認められる授乳等を行う場合に取得できる休暇（1日2回、それぞれ30分以内）男性職員が取得する場合には到達要件のある場合がある。
	子の看護休暇	○ 無給	○ 無給	子の看護を十分行う場合に認められる休暇（一の年度に5日（対象となる子が2人以上の場合は10日、時間単位で取得することも可）
	育児短時間勤務	○ 無給	○ 無給	1年以上雇用された非常勤職員が、法人が定める勤務形態により勤務できる制度
	育児休業	○ 無給	○ 無給	一定の要件※を満たす場合、3歳に達たない子を養育するため一定期間休業することができる制度
	育児部分休業	○ 無給	○ 無給	小学校就学前の子を養育するため、所定勤務時間の始め又は終わりにおいて、勤務時間の一部を勤しないことができる制度（15分単位、1日を通じて3時間を超えない範囲内）（注）部分勤務日（週3日）の場合は1日6時間の勤務
育児・介護のための制度	時間外勤務・休日勤務の免除	○ —	○ —	3歳に達たない子の養育又は家族の介護を行う職員について、時間外勤務・休日勤務を免除する制度
	時間外勤務の制限	○ —	○ —	子の養育又は家族の介護を行う職員について、時間外勤務を、1月につき24時間、1年につき150時間以内を限度とする制度
	深夜勤務の免除	○ —	○ —	子の養育又は家族の介護を行う職員について、深夜（午後10時から翌日午前5時までの間）業務を免除する制度
介護のための制度	介護休業	○ 無給	○ 無給	一定の要件※を満たす場合、常時介護を要する家族の介護のため休業することができる制度（1回1年以内、通算3年まで、3回を上限として分割取得可）
	介護部分休業	○ 無給	○ 無給	職員の家族に負傷、疾病等の事情により介護を要する者がいる場合、1日の勤務時間についてその一部又は全部を勤務しないことができる制度
	介護休暇	○ 無給	○ 無給	要介護状態にある対象家族の通院の付き添い等の援を行う職員に与えられる休暇（一の年度に5日（対象となる要介護者が2人以上の場合は10日。時間単位で取得することも可）
その他の制度	ワーク・ライフ・バランス相談室「あう」	ダイバーシティ推進、就業上のさまざまな相談に対する対応窓口として、ダイバーシティ担当において相談室「あう」を開設している。		



Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment, Development of Human Resources in Science and Technology in FY2016, MEXT

筑波大学 University of Tsukuba

The University of Tsukuba supports your life events!
Childbirth, Childcare, and Family care Support System
Work-Life Balance

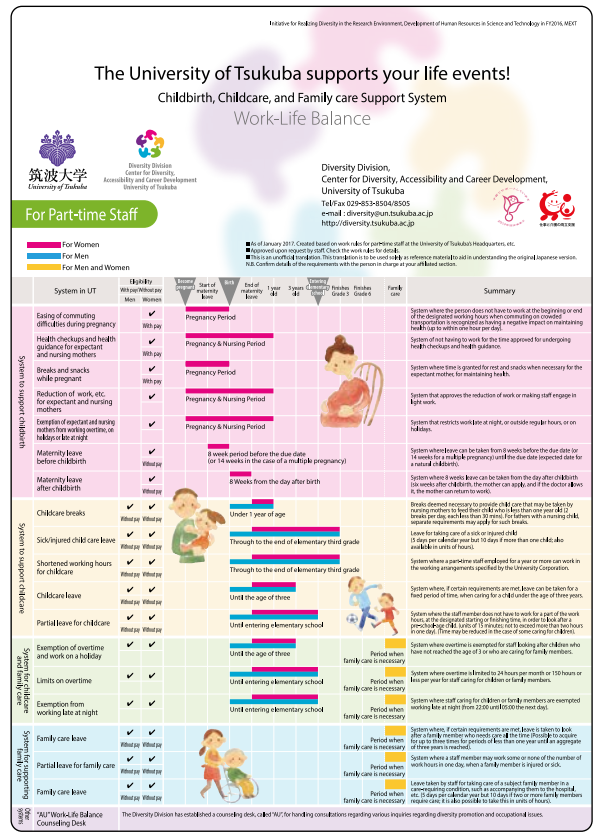
Diversity Division Center for Diversity, Accessibility and Career Development University of Tsukuba

For Full-time Staff

For Women
For Men
For Men and Women

■ As of January 2017. Created based on work rules for staff at the University of Tsukuba's Headquarters, etc.
■ Approved upon request by staff. Check the work rules for details.
■ This is an unofficial translation. This translation is to be used solely as reference material to aid in understanding the original Japanese version.
N.B. Confirm details of the requirements with the person in charge at your affiliated section.

	System in UT	Eligibility With pay Men	Eligibility Without pay Men	Eligibility With pay Women	Eligibility Without pay Women	Summary
System to support childbirth	Easing of commuting difficulties during pregnancy		✔		✔ With pay	System where the person does not have to work at the beginning or end of the designated working hours when commuting on crowded transportation is recognized as having a negative impact on maintaining health (up to within one hour per day).
	Health checkups and health guidance for expectant and nursing mothers		✔		✔ With pay	System of not having to work for the time approved for undergoing health checkups and health guidance.
	Breaks and snacks while pregnant		✔		✔ With pay	System where time is granted for rest and snacks when necessary for the expectant mother, for maintaining health.
	Reduction of work, etc. for expectant and nursing mothers		✔		✔	System that approves the reduction of work or making staff engage in light work.
	Exemption of expectant and nursing mothers from working overtime, on holidays or late at night		✔		✔	System that restricts work late at night, or outside regular hours, or on holidays.
	Maternity leave before childbirth		✔		✔ With pay	System where leave can be taken from 6 weeks before the due date (or 14 weeks for a multiple pregnancy) until the due date (expected date for a natural childbirth). Note: Staff employed with external funds will not receive any pay (a childbirth benefit can be applied for).
	Maternity leave after childbirth		✔		✔ With pay	System where 8 weeks leave can be taken from the day after childbirth (six weeks after childbirth, the mother can apply, and if the doctor allows it, the mother can return to work). Note: Staff employed with external funds will not receive any pay (a childbirth benefit can be applied for).
	Childcare leave for spouses	✔ With pay				Your spouse may take time off when the wife enters or leaves a hospital because of childbirth (a system where up to 2 days off can be taken from when the wife enters a hospital to give birth until 2 weeks after that date).
System to support childcare	Paternity leave	✔ With pay				System where up to 5 days of leave can be taken in the period from 8 weeks before the due date (or 14 weeks for a multiple pregnancy) until 8 weeks after the birth, to take care of the newborn baby or pre-school-age children.
	Childcare breaks	✔ With pay	✔ With pay			Breaks deemed necessary to provide child care that may be taken by nursing mothers to feed their child while it is less than one year old (2 breaks per day, each less than 30 minutes). For fathers with a nursing child, separate requirements may apply for such breaks.
	Sick/Injured child care leave	✔ With pay	✔ Without pay			Leave for taking care of a sick or injured child (5 days per calendar year but 10 days if more than one child; also available in units of hours).
	Shortened working hours for childcare	✔ Without pay	✔ Without pay			System where, if certain requirements are met, leave can be taken for a fixed period of time, when caring for a child under the age of three years.
	Childcare leave	✔ Without pay	✔ Without pay			
	Partial leave for childcare	✔ Without pay	✔ Without pay			System where the staff member does not have to work for a part of the work hours, at the designated starting or finishing time, in order to look after a pre-school-age child. (units of 15 minutes; not to exceed more than two hours in one day).
System for childcare and family care	Exemption of overtime and work on a holiday	✔	✔			System where overtime is exempted for staff looking after children who have not reached the age of 3 or who are caring for family members.
	Limits on overtime	✔	✔			System where overtime is limited to 24 hours per month or 150 hours or less per year for staff caring for children or family members.
	Exemption from working late at night	✔	✔			System where staff caring for children or family members are exempted working late at night (from 22:00 until 05:00 the next day).
	Conditional flextime	✔	✔			System where the starting time for work can be set flexibly without changing the number of hours worked in the day, in cases where it will not cause problems with business operations (from 07:00–10:00, units of 30 minutes).
	Special provision for rest periods	✔	✔			System where break time is 45 minutes and instead the finishing time is set at 15 minutes earlier.
System to support family care	Family care leave	✔ Without pay	✔ Without pay			System where, if certain requirements are met, leave is taken to look after a family member who needs care and the time (Possible to acquire for up to three times for periods of less than one year until an aggregate of three years is reached).
	Partial leave for family care	✔ Without pay	✔ Without pay			System where a staff member may work some or none of the number of work hours in one day, when a family member is injured or sick.
	Family care leave	✔ With pay	✔ With pay			Leave taken by staff for taking care of a subject family member in a care-requiring condition, such as accompanying them to the hospital, etc. (5 days per calendar year but 10 days if two or more family members require care; it is also possible to take this in units of hours).
Other support	Grant system for employment costs of research assistants to manage both childcare and work	System to assist with the cost of employing research assistants and targeted at full-time instructors and researchers, those expecting to give birth, those caring for children in sixth grade and under at elementary school, those looking after a family member who requires care. Costs for employing research assistants refers to labor costs and transportation costs. It does not apply to social insurance (employment at the university shall be less than 20 hours per week).				
	"AU" Work-Life Balance Counseling Desk	The Diversity Division has established a counseling desk, called "AU", for handling consultations regarding various inquiries regarding diversity promotion and occupational issues.				



Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment, Development of Human Resources in Science and Technology in FY2016, MEXT

The University of Tsukuba supports your life events!
Childbirth, Childcare, and Family care Support System
Work-Life Balance

筑波大学 University of Tsukuba

Diversity Division Center for Diversity, Accessibility and Career Development University of Tsukuba

Diversity Division,
Center for Diversity, Accessibility and Career Development,
University of Tsukuba
Tel/Fax 029-853-8504/8505
e-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
http://diversity.tsukuba.ac.jp

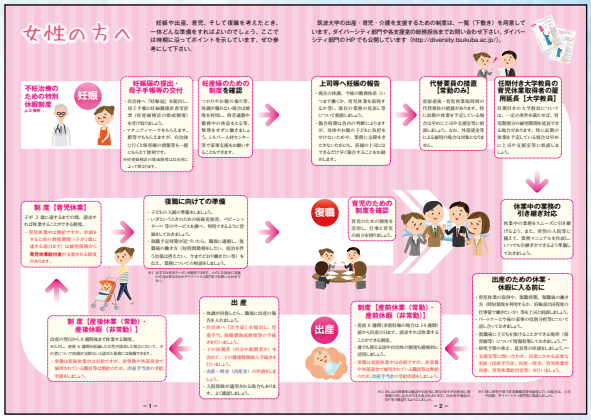
For Part-time Staff

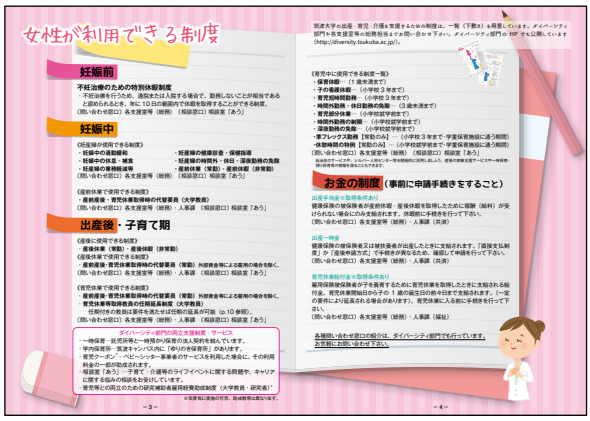
For Women
For Men
For Men and Women

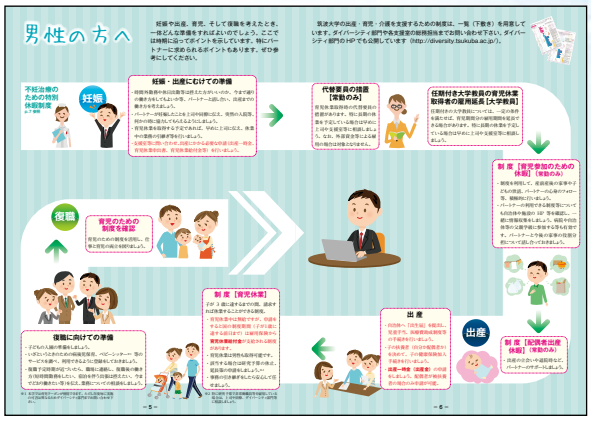
■ As of January 2017. Created based on work rules for part-time staff at the University of Tsukuba's Headquarters, etc.
■ Approved upon request by staff. Check the work rules for details.
■ This is an unofficial translation. This translation is to be used solely as reference material to aid in understanding the original Japanese version.
N.B. Confirm details of the requirements with the person in charge at your affiliated section.

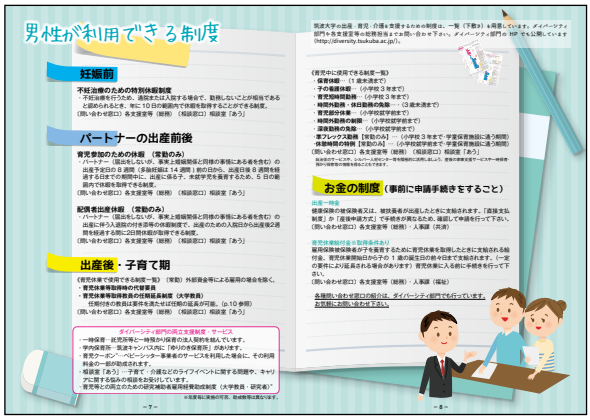
	System in UT	Eligibility With pay Without pay Men	Eligibility With pay Without pay Women	Summary
System to support childbirth	Easing of commuting difficulties during pregnancy	✔ With pay		System where the person does not have to work at the beginning or end of the designated working hours when commuting on crowded transportation is recognized as having a negative impact on maintaining health (up to within one hour per day).
	Health checkups and health guidance for expectant and nursing mothers	✔ With pay		System of not having to work for the time approved for undergoing health checkups and health guidance.
	Breaks and snacks while pregnant	✔ With pay		System where time is granted for rest and snacks when necessary for the expectant mother, for maintaining health.
	Reduction of work, etc. for expectant and nursing mothers		✔	System that approves the reduction of work or making staff engage in light work.
	Exemption of expectant and nursing mothers from working overtime, on holidays or late at night		✔	System that restricts work late at night, or outside regular hours, or on holidays.
	Maternity leave before childbirth	✔ Without pay		System where leave can be taken from 6 weeks before the due date (or 14 weeks for a multiple pregnancy) until the due date (expected date for a natural childbirth).
	Maternity leave after childbirth	✔ Without pay		System where 8 weeks leave can be taken from the day after childbirth (six weeks after childbirth, the mother can apply, and if the doctor allows it, the mother can return to work).
System to support childcare	Childcare breaks	✔ Without pay	✔ Without pay	Breaks deemed necessary to provide child care that may be taken by nursing mothers to feed their child while it is less than one year old (2 breaks per day, each less than 30 minutes). For fathers with a nursing child, separate requirements may apply for such breaks.
	Sick/Injured child care leave	✔ Without pay	✔ Without pay	Leave for taking care of a sick or injured child (5 days per calendar year but 10 days if more than one child; also available in units of hours).
	Shortened working hours for childcare	✔ Without pay	✔ Without pay	System where a part-time staff employed for a year or more can work in the working arrangements specified by the University Corporation.
	Childcare leave	✔ Without pay	✔ Without pay	System where, if certain requirements are met, leave can be taken for a fixed period of time, when caring for a child under the age of three years.
	Partial leave for childcare	✔ Without pay	✔ Without pay	System where the staff member does not have to work for a part of the work hours, at the designated starting or finishing time, in order to look after a pre-school-age child. (units of 15 minutes; not to exceed more than two hours in one day. (Time may be reduced in the case of some caring for children).
System for childcare and family care	Exemption of overtime and work on a holiday	✔	✔	System where overtime is exempted for staff looking after children who have not reached the age of 3 or who are caring for family members.
	Limits on overtime	✔	✔	System where overtime is limited to 24 hours per month or 150 hours or less per year for staff caring for children or family members.
	Exemption from working late at night	✔	✔	System where staff caring for children or family members are exempted working late at night (from 22:00 until 05:00 the next day).
System for supporting family care	Family care leave	✔ Without pay	✔ Without pay	System where, if certain requirements are met, leave is taken to look after a family member who needs care and the time (Possible to acquire for up to three times for periods of less than one year until an aggregate of three years is reached).
	Partial leave for family care	✔ Without pay	✔ Without pay	System where a staff member may work some or none of the number of work hours in one day, when a family member is injured or sick.
	Family care leave	✔ Without pay	✔ Without pay	Leave taken by staff for taking care of a subject family member in a care-requiring condition, such as accompanying them to the hospital, etc. (5 days per calendar year but 10 days if two or more family members require care; it is also possible to take this in units of hours).
Other support	"AU" Work-Life Balance Counseling Desk	The Diversity Division has established a counseling desk, called "AU", for handling consultations regarding various inquiries regarding diversity promotion and occupational issues.		

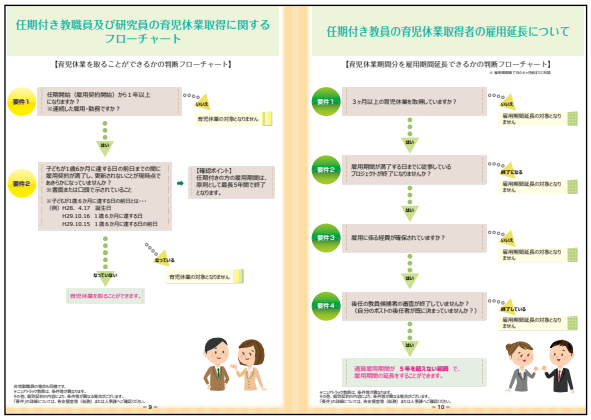
②育児休業制度利用の手引き



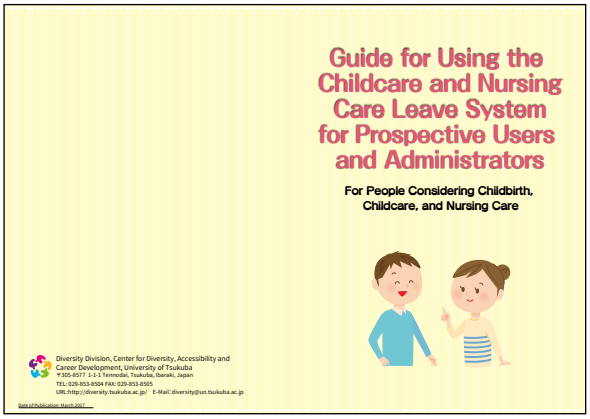


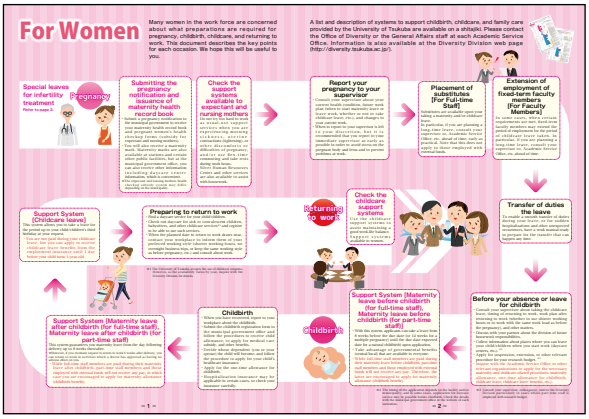


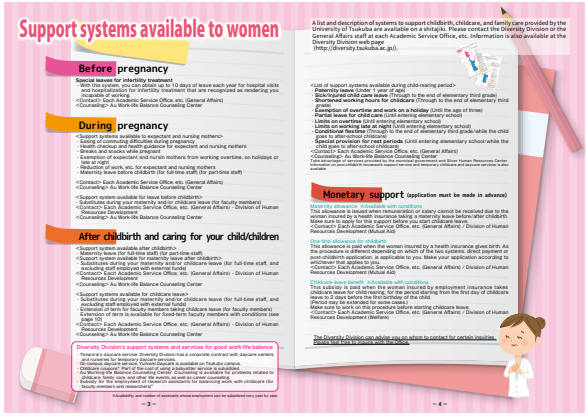


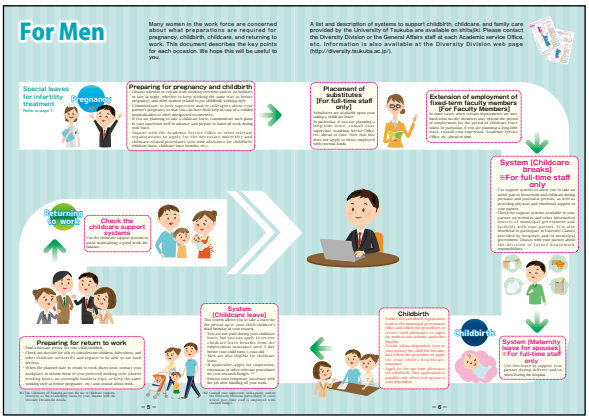


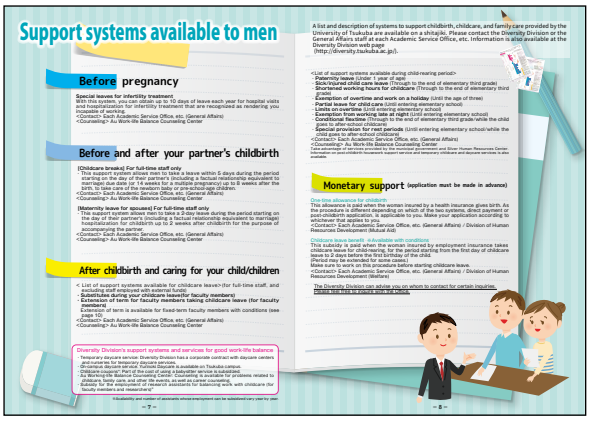
https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/?page_id=705

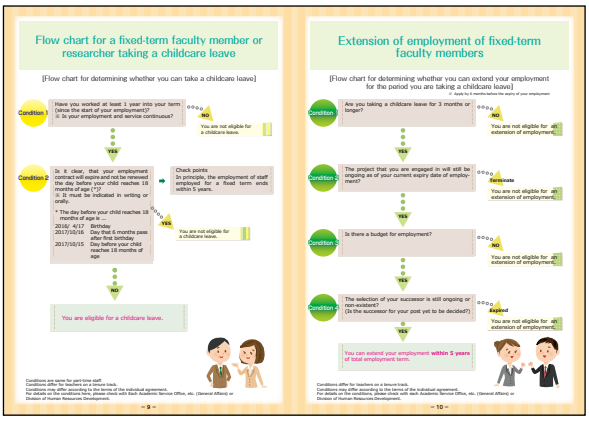






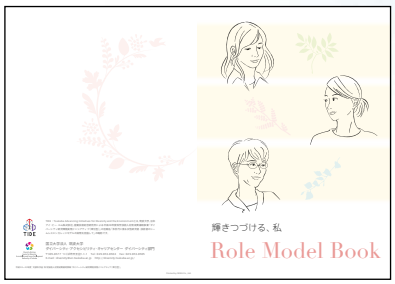






https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/?page_id=705

③ロールモデル集



https://diversity.tsukuba.ac.jp/wordpress2017/?page_id=705

④プレスリリース「輝く女性の活躍を加速する　男性リーダーの会」行動宣言の賛同

平成 29 年 3 月 1 日

筑波大学ニュース＆トピックス

永田恭介学長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました

国立大学法人筑波大学学長の永田恭介は、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しましたので、お知らせいたします。

本学学長の永田恭介は、この「行動宣言」に賛同し、筑波大学の学生及び教職員を含めた全ての女性の活躍のさらなる推進を通じて、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指した教育研究を充実･強化していくことを、改めて表明します。

■「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について

平成 26 年 3 月 28 日に首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、輝く女性・輝こうとする女性たちを応援する各界のリーダーたちによるムーブメントが拡がっています。

このような中、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業の男性リーダーによる「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が取りまとめられました。

※「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言ホームページ
http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders.html

■国立大学法人筑波大学の女性活躍推進施策について

筑波大学では、平成 9 年に女性研究者の有志による「筑波大学女性教官懇話会（仮称）」が発足し、学内保育所や男女共同参画推進室の設置、育児・介護支援、各種相談体制の確立等を進めるとともに、平成 20 年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」、平成 24 年には「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定する等、これまで一貫して女性活躍のための環境整備・意識啓発等の支援に取り組んできました。平成 28 年、これらの取組は多様化する学生及び教職員への包括的な支援を目的とした「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」に引き継がれ、さらなる女性の活躍を後押しするべく、現在も取組を加速させています。

■本学の施策に関する詳細

・ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門 HP
・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

※筑波大学は、平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、一層の女性活躍推進に取り組んでいきます。

■本件問い合わせ先

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504　E-mail : diversity@un.tsukuba.ac.jp

IMAGINE
THE
FUTURE.

国立大学法人　筑波大学
ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター　ダイバーシティ担当

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
Tel/Fax：029-853-8504/8505
e-mail：diversity@un.tsukuba.ac.jp
https://diversity.tsukuba.ac.jp

Diversity Division
Center for Diversity,
Accessibility and Career Development
University of Tsukuba